

# 10年間 ふるさとなみえ 大事典





赤十字を通じて、世界の人々から  
From the people around the world through Red Cross

## 【 はじめに 】

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故により、浪江町が全町避難となり、二本松市立旧下川崎小学校校舎をお借りして学校再開をして、10年目となりました。この節目の年に、最後の児童が卒業をし、浪江町立避難先再開小学校はその役目を終えて閉じることになりました。この10年間、避難先の極小規模校という特殊な状況での教育活動ではありましたが、浪江町の方々や二本松市の方々、全国のたくさんの方々にご支援をいただきながら、通ってきてくれる児童のより良い発達に寄与すべく取り組んでまいりました。支えてきてくださった皆様に改めて御礼を申し上げます。

この避難先再開小学校を閉じるにあたり、令和2年度をどのように展開していくべきか、全職員で協議を重ねて教育課程を編成しました。10年間避難先再開小学校の核であり続けた、「ふるさとなみえ科」を1年間かけて丁寧にまとめ、丁寧に残すことであるとの結論にいたりしました。

具体的には、丁寧にまとめるために、「なみええっこカルタ」を使って、児童の入学前や低学年時の取り組みを学び直すこと。「なみえっこカルタ」によまれた地を巡って、現在の様子を確認すること。丁寧に残すために、福島県立博物館学芸員様の手をお借りして、博物館を再構築すること。そして、これらの活動を記録として残すことです。

この「10年間ふるさとなみえ大事典」は、1年間の活動の記録であり、10年間の取り組みのまとめです。10年分の資料を掘り起こして記録を見直していくと、この「ふるさとなみえ科」を立ち上げ、続けてこられた諸先輩方の熱い思いと工夫と努力に触れ、心酔しました。改めて「ふるさとなみえ科」という教育プログラムの価値を再認識するとともに、諸先輩方への尊敬と感謝の気持ちで一杯になりました。

そこで、これまで支えてきてくださった皆様、「ふるさとなみえ科」を創設し継続してきてくださった皆様に、この大事典をお届けして感謝の気持ちをお伝えしたいと考えました。

津島小学校校長 木村 裕之



# 【 目 次 】

- I 10年間ふるさとなみえ博物館図録 …………… 1
  - 館長あいさつ・博物館の使命
  - 1 前期の取り組み
  - 2 中期の取り組み
  - 3 後期の取り組み
  
- II 10年間ふるさとなみえ博物館ができるまで ……… 22
  - 1 福島県立博物館学芸員さんと一緒に活動
  - 2 自分たちでその他の作業
  
- III 「なみえっ子カルタ」を使った学び直し …………… 28
  - 1 カルタ由来の地を巡る
  - 2 「なみえっ子カルタ R2 Ver.」
  - 3 「なみえ新聞 R2 Ver.」
  
- IV ふるさとなみえ科10年間の歩み …………… 65
  - 1 ふるさとなみえ科とは
  - 2 ふるさとなみえ科の目的
  - 3 ふるさとなみえ科創設の経緯と背景
  - 4 ふるさとなみえ科の変遷
  - 5 ふるさとなみえ科4つの学習プログラムと主な内容
  - 6 おわりに

I

# 10年間ふるさとなみえ博物館図録





## 館長あいさつ

2011年3月11日 午後2時46分 東日本大震災が起こりました。浪江町の人たちは、全国に避難しました。

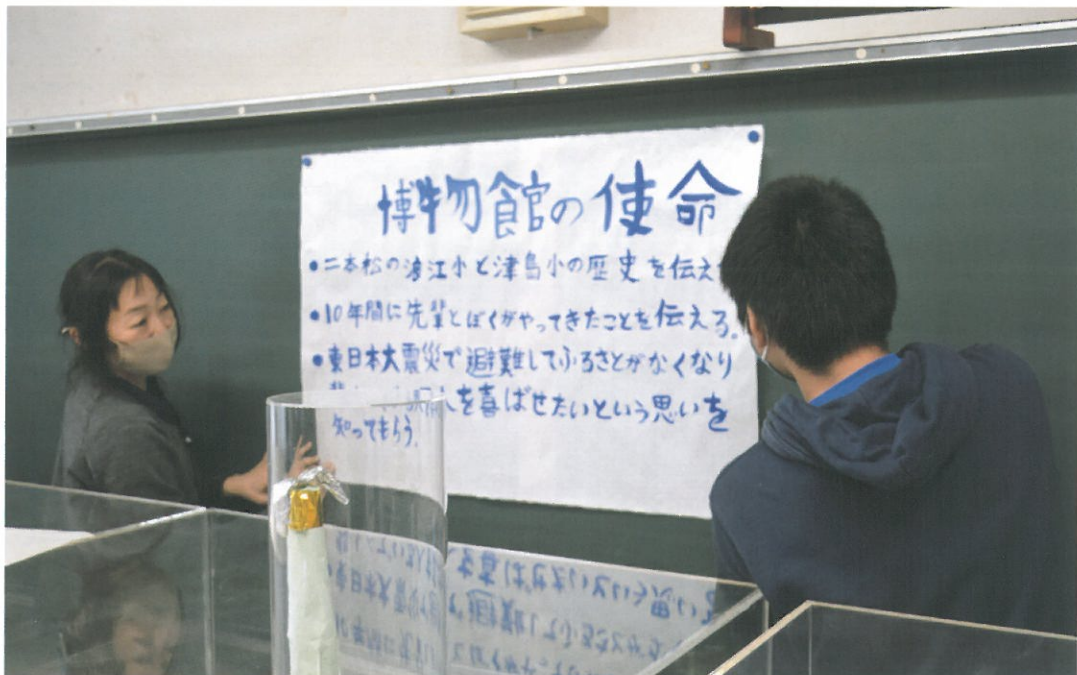
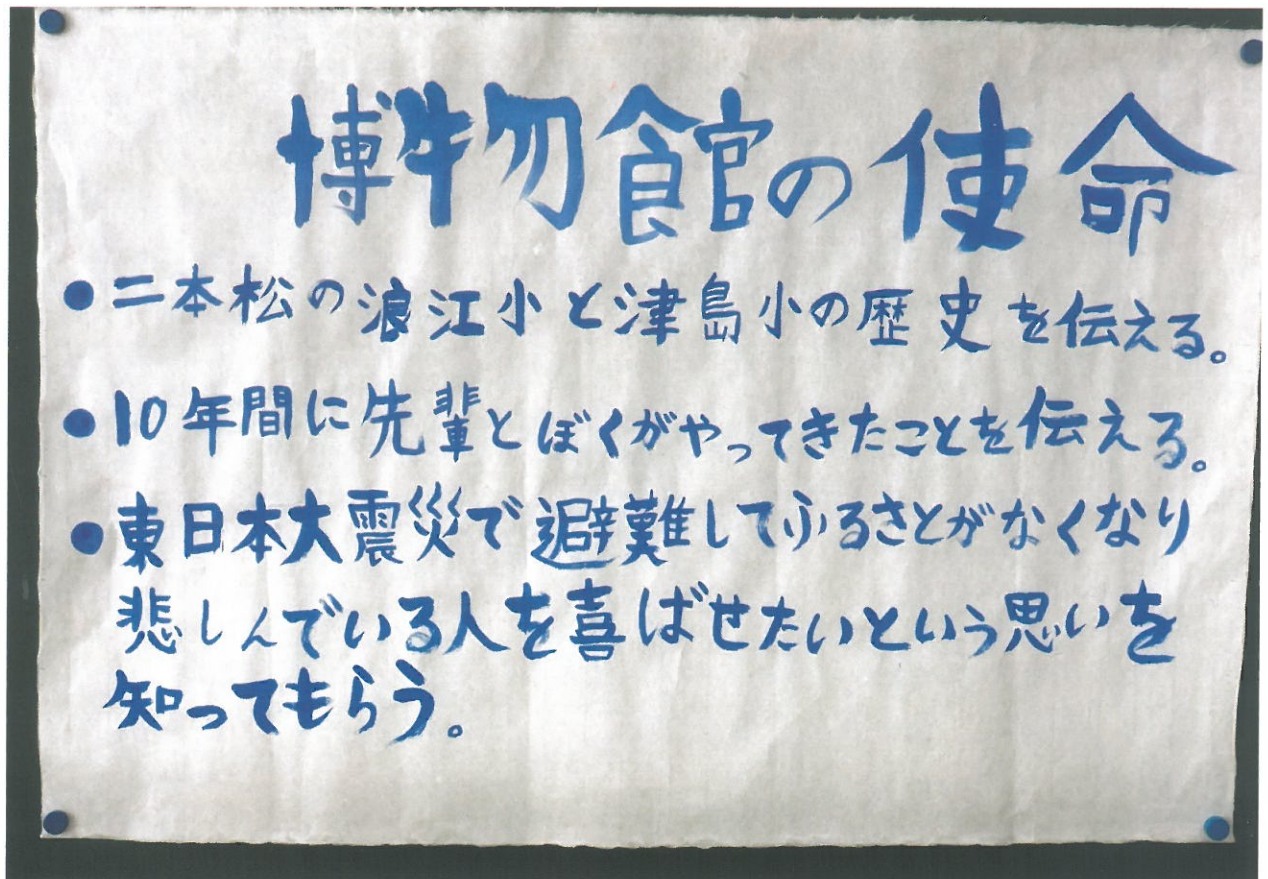
その年の8月 二本松市の下川崎に、浪江小学校が再開しました。2014年には、津島小学校も開校し、いっしょに学習するようになりました。

この博物館は、二本松の浪江小学校と津島小学校の、ふるさとなみえ科の10年間の歴史を伝えるための博物館です。ここには、先輩方とぼくがやってきたことが詰まっています。特に、なみえっ子カルタは、浪江町の風景や文化が描かれています。

東日本大震災で避難して、ふるさとがなくなって悲しんでいる人を、喜ばせ、元気づけたいという、ぼくたちの思いを知ってもらえたらうれしいです。

2021年 2月 25日

# 須藤嘉人



上川崎和紙に館長自筆の使命を書きました。

# 前期の取り組み

平成23～26年度

1

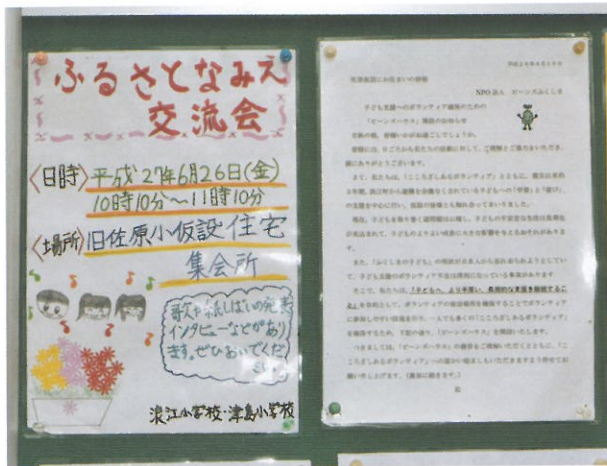
ふるさと浪江を思い出しながら、町について学んだ時期

全児童が浪江町での思い出をもっていた。その思い出をもとに、浪江町カルタを作り、未来の浪江町について考え、模型にした。仮設訪問を続け、町民とのつながりを大切にする中で、自分たちががんばることで町民を笑顔にできることを実感し、十日市祭にも積極的に参加した。

町の伝統工芸品である大堀相馬焼を学び体験することで、夢が生まれた児童もいた。

ソウルフードのなみえ焼きそばについても学び、B-1グランプリでは子ども大使として活躍した。

十日市祭や安波祭、三匹獅子についても学び、長く続く伝統文化や、それを守ろうとする人々の思いにもふれることができた。





## 未来の浪江町模型 (002)



当時の3年生が浪江町役場復興推進課の小林直樹さんに話を聞いて、浪江町についての学習をしました。その後、未来の浪江町について考えました。それを早稲田大学建築土木専攻の学生さんの協力で、模型にしました。

中央に、浪江の鳥「カモメ」をかたどったシンボルタワーを作りました。風力発電で電気を作り、海から山まで続くロープウェーを動かしたり、温泉施設を作ってお年寄りが楽しめる場所を作ったりしました。

だれもが安心して生活できる町を考えて模型にしました。



## 紙芝居 (003~010)



「浪江まち物語つたえ隊」の会長小澤是寛さんと語り部の八島妃彩さんが来校し、浪江町の民話等の紙芝居7点と、紙芝居用枠を寄贈していただきました。

仮設訪問やオンフルール訪問では、この紙芝居を活用した発表を行いました。浪江町の方に喜んでいただきました。

令和元年、学校応援の会の方との交流では、「奇跡の請戸小学校避難物語」を先生方と一緒に発表しました。東日本大震災について、深く学ぶきっかけになりました。

### 【紙芝居内訳】

- ・ 甚六の狐退治
- ・ あっこ淵
- ・ 酒田の大堤
- ・ 浪江神社物語（裸参りと十日市）
- ・ 安波様
- ・ 奇跡の請戸小学校避難物語
- ・ 歯形の栗



## 「なみえ新聞」 (011~018)



読売新聞の傍田光路さんに、新聞の書き方や見出しの付け方を教わりました。

NHKの佐藤まり子さんに、インタビューの仕方をアドバイスいただきました。

それらの学びを生かし、十日市祭・安波祭・食文化・三匹獅子・大堀相馬焼など、数々の新聞を作ってきました。その一部が掲示してあります。



## 「浪江焼麺太国こども大使」(019~021)



平成25年に、B-1グランプリに参加するなみえ焼麺を応援するため、やきそば子ども大使に任命されました。なみえ焼麺を応援する絵を描いたり、のぼりを作ったりしました。なみえ焼麺は、その年、見事優勝しました。

平成26年の郡山大会では、ステージで焼きそばダンスを披露しました。

### ＜なみえ焼きそばの特徴＞

極太麺と濃いソース。具は豚バラ肉ともやし。七味じゃなくて、一味をかければ、君もなみえ焼きそばの一味だ！



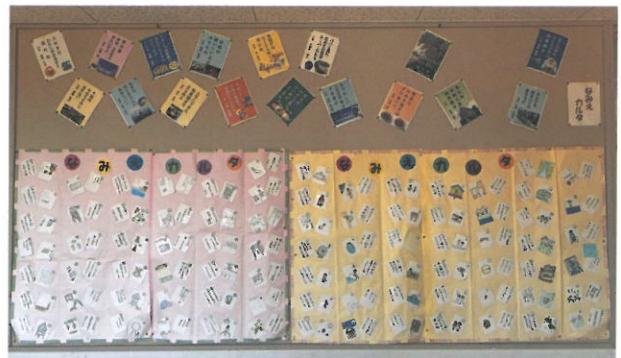
## 「なみえっ子カルタ」 (022~137)



「なみえカルタ」の学習は、二本松再開校が開校した平成23年度から行われてきました。学年ごとに浪江町の思い出をカルタにし、各自の思い出を表現したため、同じ文字で始まる札が何枚もありました。そこで、平成27年、「あ」から「ん」までの札を整理して、絵本作家の飯野和好さんに絵札のかき方を教わり、「なみえっ子カルタ」として完成させました。

できあがったカルタは、役場に届けたり、仮設訪問で活用したりしました。浪江町の思い出がぎゅっと詰まったこのカルタで遊ぶとみんなが笑顔になりました。

「なみえっ子カルタ」は、「なみえカルタ」をまとめた取り組みなので、前期に分類しています。



## 和太鼓 (138~142)



浪江町の人に元気を届けられ、しかも、児童が一つになれるものは何かと、先生方が考えてたどり着いたのが和太鼓です。平成25年に、標葉せんだん太鼓保存会の方に指導していただき、「天響」を演奏しました。次の年には横打ちの「朝日」にも挑戦しました。「朝日」は高学年が演奏する曲だったので、当時1年生だったぼくは、早く大きくなって、横打ちをやってみたいと思っていました。

毎年、十日市祭や仮設訪問で演奏し、町の人に元気を届けてきました。



# 大堀相馬焼 (143~207)



開校当時から大堀相馬焼協同組合の組合長の半谷秀辰さんや小野田利治さん、京月窯の近藤京子さんなどに教えていただき作ってきました。始めは手びねりの作品に取り組み、高学年になるとろくろでの作品作りをしました。大堀相馬焼の特徴は、ひびの入ったような模様の「青ひび」、馬の絵の「走りごま」、熱いお湯を入れても持つことができる「二重焼き」の3つです。

350年以上続く伝統を、守り、伝えていこうとする方々の、強い思いを知りました。



## 千羽鶴 (208~211)



二本松再開校の開校当初から、全国より多くの千羽鶴が届きました。福島を応援してくれる気持ちが伝わりました。

平成26年には、遠くサンパウロから千羽鶴が届きました。外国の人も、ぼくたちを応援しようとしてくれていることに驚きました。サンパウロでは、折り紙がなく雑誌や広告の紙で鶴を折っていることも知りました。

サンパウロの他にも、愛媛県の道後小学校や岡山県高梁市の学校、中国からも届きました。





## 2 中期の取り組み

平成27～30年度

生まれ育った浪江町と、学校生活をおくっている二本松市の二つのふるさとについて、比べながら学んだ時期

この時期の児童は、浪江町で生活した月日より、二本松市で生活した月日の方が長くなっていった。そのため、浪江町だけでなく、今生活している二本松市についても学ぶことで、ふるさとについてより深く考えられるのではないかと、二つの町を比較しながら学ぶことにした。

平成27年度 食文化（紅葉汁とざくざく）

（かぼちゃまんじゅうと二本松和菓子）

平成28年度 伝統工芸（大堀相馬焼と城家筆筒）

平成29年度 祭り（十日市祭と二本松提灯祭り）

平成30年度 働く人（浪江町で働く人と二本松市で働く人）

学んでいくうちに、ふるさとに対する思いの深さを知った。伝統を守り続けようとする人。新しいことを取り入れようとする人。ここで働くことを決めた人々。多くの人とふれあうことで、人から学ぶことの大切さに気づくことができた。



## 「なみえっ子みこし」 (212~213)



浪江町と二本松市の祭りをテーマに学習した時に作りました。浪江町の十日市祭では、各地区に子どもみこしがありました。二本松市の提灯祭りでも、みこしを担いで二本松神社に奉納することを知りました。そこで、浪江町と二本松市を融合させてみこしを作りました。浪江町の花のコスモスと二本松市の菊。浪江町の鳥のカモメと二本松市を代表する提灯を飾りました。

祭りは、「ふるさとの大切な行事だということ」や「ふるさとを思う人たちが守り続けているということ」を学びました。



## 城家筆筒 (214)



伝統工芸品をテーマに、浪江町の大堀相馬焼と、二本松市の城家筆筒を学びました。二本松市内にある鈴木木工所の方にお話を伺い、城家筆筒の金具付け体験をしたり、筆筒を作っているところを見せていただいたりしました。

どちらの伝統工芸品も、守り伝えていこうとする人の努力があること、新しいことを取り入れようとする工夫があることが分かりました。



# 「んだげんちょ」(215~220)



「んだげんちょ」は、浪江町の方言です。始めは、方言を集めて歌を作りました。次に、振りを付けてダンスにしました。浪江町への思いを込めた歌詞になるように、ニューバージョンを作り、ダンベル体操に進化させました。

歌で町の人々の心を元気にして、ダンスや体操で体を元気にしたいという思いで取り組みました。

十日市祭や仮設訪問、ダンベル交流会などで町の人に披露し、いっしょに歌ったり踊ったりして楽しみました。



休校を目前にした総まとめの時期

令和元年度末 浪江小学校 休校

令和2年度末 津島小学校 休校

この現実を前に、「何をどう残すのか」「何をどう伝えるのか」という問いに、正面から立ち向かった児童2人は、それぞれの小学校の最後の卒業生となった。

令和元年度は、今まで学んできたことを年表にまとめ、支援し、応援してくれた人々との交流の歴史をまとめた。

令和2年度は、2階に置いてあった学びの足跡を一カ所にまとめ、整理して博物館として残す活動に取り組んだ。また、カルタに描かれた地を巡る浪江町探検を通して、感じた思いを冊子にまとめ、伝えていくことにも取り組んだ。

今まで学んできたことを振り返り、学び直しをすることで、新たな発見が生まれ、ふるさとをより深く考えるきっかけとなった。



# 年表・交流まとめ (221~224)



令和元年度に、なみえっ子の2人で作りました。これを見れば、ふるさとなみえ科の10年間の学びがすぐに分かります。

「年表」を作って、開校当時からの先輩方が学んできたことをぼくたちも引き継いできたことや、いろいろなことを教わってきたことが分かりました。「交流の歴史」では、たくさんの人たちが、ぼくたちを応援してくれていることが分かり、今でもその交流が続いていることに、感謝したいです。

年表や交流の歴史をまとめる活動を通して、ぼくも困っている人を助ける人になりたいと思いました。



## 博物館看板 (225)



博物館の名前を考えました。そして、看板の文字は、大堀相馬焼協同組合長の小野田利治さんをお願いして大堀相馬焼で作り、看板の板は、二本松家具の鈴木木工所さんをお願いして金具をつけ、看板を作りました。大堀相馬焼の文字は、学校応援の会の方にも手伝ってもらいました。

文字が焼き上がったら配置を考えました。校長先生が、文字がはめ込めるように板を削り、板に文字を接着させて、博物館の戸に看板を付けてくれました。

「戸を開けると看板も動くようにしたい」というぼくの思いが実現して、大満足です。



その他・展示物 (226~236)

「ほのぼの人形」 んだげんちょダンス



「ほのぼの人形」 なみえっ子和太鼓



平成27年博物館看板



「なみえっ子カルタ」 マップ



浪江町立6小学校校歌



麒麟のベンチ





## 博物館展示物一覧

No.	展 示 物	No.	展 示 物
000	館長あいさつ	140	和太鼓:ばち
001	博物館の使命	141~142	和太鼓:衣装
002	未来の浪江町模型	143~163	大堀相馬焼:食器他
003	紙芝居:甚六の狐退治	142~206	大堀相馬焼:箸置き
004	紙芝居:酒田の大堤	207	大堀相馬焼:走り馬絵
005	紙芝居:安波様	208~211	千羽鶴
006	紙芝居:歯形の栗	212	「なみえっ子みこし」:みこし
007	紙芝居:あっこ淵	213	「なみえっ子みこし」:新聞記事
008	紙芝居:浪江町神社物語(裸参りと十日市)	214	城家筆筭
009	紙芝居:奇跡の請戸小学校避難物語	215	「んだげんちょ」:年表
010	紙芝居:紙芝居用枠	216	「んだげんちょ」:衣装
011	「なみえ新聞」:十日市祭	217~218	「んだげんちょ」:歌詞
012	「なみえ新聞」:ざくざく	219	「んだげんちょ」:ダンベル
013	「なみえ新聞」:紅葉汁	220	「んだげんちょ」:新聞記事
014	「なみえ新聞」:大堀相馬焼	221	年表・交流まとめ:年表
015	「なみえ新聞」:安波祭	222	年表・交流まとめ:交流まとめ
016	「なみえ新聞」:三匹獅子	223~224	年表・交流まとめ:写真
017~018	「なみえ新聞」:なみえっ子みこし	225	博物館看板
019	浪江焼麺太国太王衣装・帽子	226	「ほのぼの人形」んだげんちょダンス
020	「浪江焼麺太国こども大使」衣装	227	「ほのぼの人形」なみえっ子和太鼓
021	なみえ焼きそばのぼり写真	228	平成27年度博物館看板
022~067	「なみえっ子カルタ」:読み札	229	「なみえっ子カルタ」マップ
068~113	「なみえっ子カルタ」:絵札	230	校歌:浪江小学校
114~128	「なみえっ子カルタ」:なみえっ子カルタを作って	231	校歌:幾世橋小学校
129	「なみえっ子カルタ」:かぼちゃまんじゅう模型	232	校歌:請戸小学校
130	「なみえっ子カルタ」:写真	233	校歌:大堀小学校
131~137	「なみえっ子カルタ」:その他のカルタ	234	校歌:苅野小学校
138	和太鼓:太鼓	235	校歌:津島小学校
139	和太鼓:楽譜	236	麒麟のベンチ

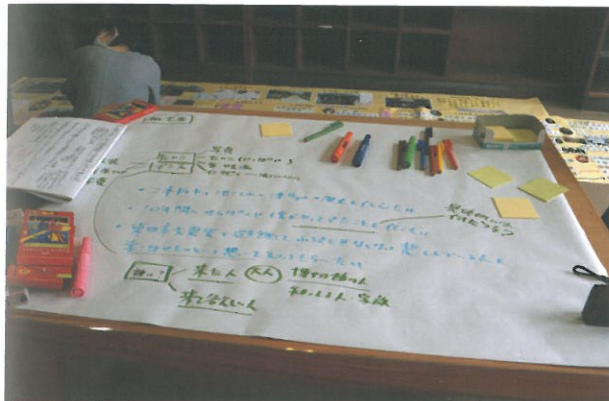
II

10年間ふるさとなみえ博物館が  
できるまで



# 1 福島県立博物館学芸員さんと一緒に活動

## ● 博物館の基本を学ぶ①：博物館の使命設定 (令和2年7月14日・7月30日)



## ● 博物館の基本を学ぶ②：県立博物館視察

(令和2年9月24日)



• 展示の準備をする：資料集約・資料カード作成・展示図作成

(令和2年8月31日・10月20日)



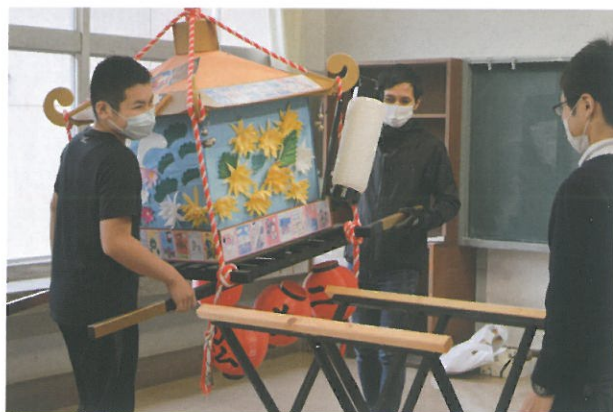
• 看板作成

(令和2年9月11日・10月20日)

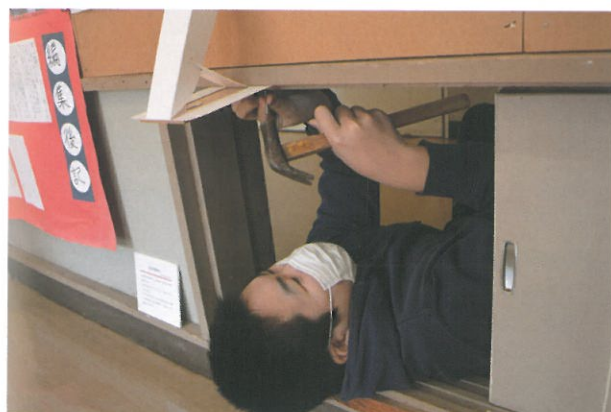


## ● 資料を展示する：展示作業・パネルとキャプション作成

(令和2年11月2日・12月21日・令和3年1月22日)



## 2 自分たちでその他の作業



# 完成！博物館風景



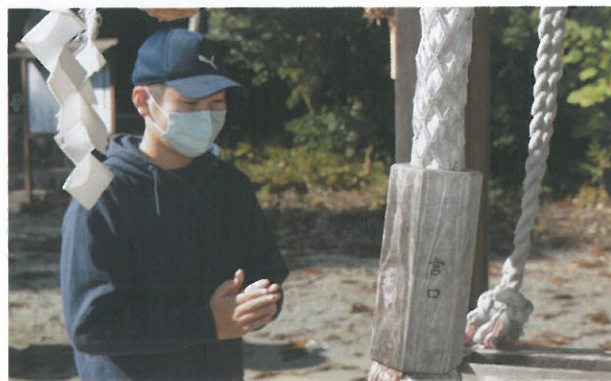
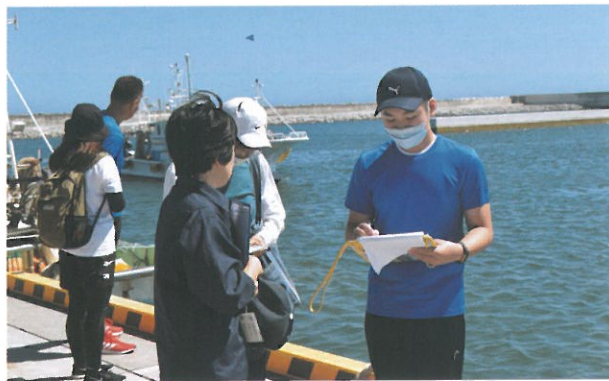


### Ⅲ

## 「なみえっ子カルタ」を使った学び直し

### 1 カルタ由来の地を巡る

- ★春4月6日：①浪江神社 ②中央公園 ③サンプラザ ④浪江小学校 ⑤新町通り  
⑥浪江町役場 ⑦丈六公園 ⑧リバーライン
- ★夏8月28日：①請戸漁港・マリンパーク ②請戸小学校 ③浪江駅 ④大平山  
⑤初発神社
- ★秋10月30日：①標葉神社 ②立野の堤 ③坂田・藤橋地区 ④大聖寺  
⑤道の駅なみえ ⑥泉田川(やな場) ⑦津島地区(車中)



### 2 「なみえっ子カルタ R 2 Ver.」

令和2年度に「なみえっ子カルタ」を使った学び直しで、浪江町探検をしました。今の浪江町の現状を伝えるために児童が新しくつくったのが「なみえっ子カルタ R 2 Ver.」です。

### 3 「なみえ新聞 R 2 Ver.」

令和2年度に児童が新しくつくった「なみえ新聞」です。





①  
七五三  
浪江神社で  
おまいりしたよ

場所

## 浪江神社

訪問日

令和2年4月6日

★ 調べて分かったこと

### 【裸参り】

1年間の無火災を祈る「裸参り」は、町の無形民俗文化財に指定されており、毎年旧暦の1月8日に行われ、初春の恒例行事。安政6年（1859年）に町内の繁華街が大火に見舞われたため、火災が広がらないように街並みを変えたことなどが由来と伝えられています。白装束姿の若衆が、目抜き通りを掛け抜けるときに、浴道に集まった大勢の町民がバケツに用意した冷水をひしゃくで若衆に浴びせ、1年の無火災を願います。

作成者 今野 笑瑠捺 (当時4年生)



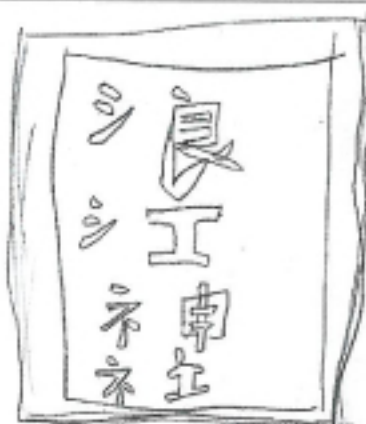
②  
水かけら  
裸参りは  
寒そうだ

(浪江町HP)

作成者 須藤 真司 (当時3年生)



浪江神社：訪問日当日



浪江神社ははだかまいりが始  
まった場所です。水をかける時に  
使った道具を見つけました。2月の裸ま  
いりは寒そうだからかぜをひきそうです。



の  
野馬追いで  
もり上がるぞ！  
さあ夏だ！

場所

中央公園

訪問日

令和2年4月6日

★ 調べて分かったこと

【標葉郷野馬追祭】

平成30年度は震災後8年振りに、浪江町内で標葉郷騎馬会の出陣式、凱旋行列が実施されました。中央公園より出陣し、町内御行列後に南相馬市小高区小高神社（三妙見神社）から小高郷の出陣に合流しました。雲雀ヶ原本陣での甲冑競馬・神旗争奪戦後、町内で凱旋行列し、標葉郷神旗争奪戦を行いました。

(浪江町HP)

作成者 佐藤 穂乃香 (当時3年生)



る  
ルンルンで  
おどりまくた  
盆おどり

作成者 三瓶 薫 (当時6年生)



標葉郷相馬野馬追祭：浪江町HP



中央公園：訪問日当日

感想

中央公園には、たくさんの楽しい行事  
がありました。野馬追いは、見たことが  
ないから見てみたいです。



め  
めずらしい  
何でもそろそろ  
サンプラザ

場所

サンプラザ

訪問日

令和2年4月6日

作成者

渡部 雅晴 (当時5年生)

★ 調べて分かったこと

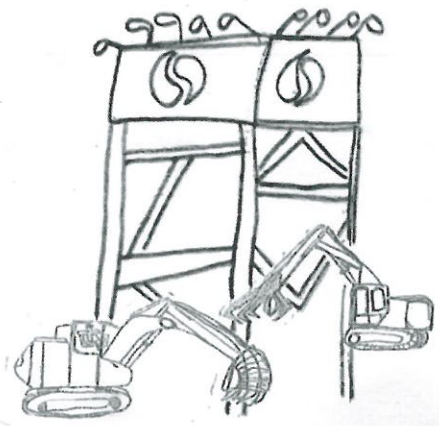
【サンプラザ】

浪江町の協同組合および同組合が運営するショッピングセンター。

本館＝サンフーズ浪江店（食料品）、江戸銀（寿司・総菜）、サンメリー（パン）、銘店、マクドナルド、Pコック、めでた家（たこ焼き）、ソフトクリーム屋さん、ジョイプラザ（アミューズメント）、サンプラザ観光、サンモード美容室、ワコール、ブティックレヴィ、マツバヤ館、サンフレンド館、サンギフト、サンデンキ浪江店、サンオート、100円ショップ meets. 浪江店、ミスターランドリー、au ショップ浪江店  
(ウィキペディア)



ありし日のサンプラザ



解体中のサンプラザ：訪問日当日

感想

おばあちゃんがいろいろかたサンプロ  
ザがこわされていた。ちょっと悲しいです。  
浪江町に高校がないからできればいいな  
と思いました。



⑤  
 運動会  
 らっかさん

場所

浪江小学校

訪問日

令和2年4月6日

作成者

須藤 伶 (当時6年生)

★ 調べて分かったこと

【浪江小学校】

明治6年6月創立。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、福島第一原子力発電所事故の影響により全町避難となりました。そのため、旧二本松市立下川崎小学校を仮校舎に、平成23年8月再開しました。震災前は児童が500人以上在籍していたが、県外避難の影響などにより令和2年3月に最後の児童が卒業し、147年間の歴史に幕を閉じて休校となりました。



①  
 リングバトン  
 やりたかったな  
 鼓ヶ由パレード

作成者

三瓶 薫 (当時6年生)



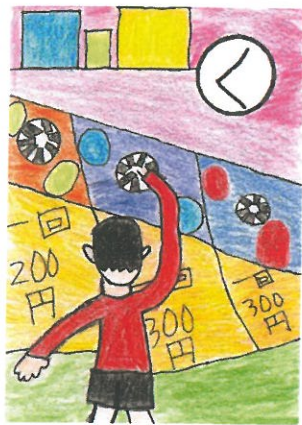
平成27年度：運動会



浪江小学校本校舎：訪問日当日

感想

浪江小学校では中央公園を昼休みに使って遊んでいました。子どもの数が多すぎて公園を使っていたと思います。(550人は多摩第一小学校と同じぐらい)



く  
くしびきで  
毎年あてた  
十日市

作成者 久米田 滉斗 (当時6年生)



と  
とおかぢ  
十日市  
かならず買おうよ  
わたあめを

作成者 三瓶 晴奈 (当時2年生)

場所

新町通り (十日市祭)

訪問日

令和2年4月6日

★ 調べて分かったこと

【十日市】

明治6年に浪江神社の祭日として権現堂地区に市を立てたことに始まります。今日まで受けつがれた、浪江町最大の伝統行事です。

十日市の名前は、旧暦10月10日を中日として、三日間行われたことに由来します。収穫を終えた人々が、豊年を祝い、冬に向むけて生活用品を整えるための市として始まったものです。

十日市の三日間は、中心である新町通りは完全な歩行者天国となり、およそ300店ほどの露店が建ち並び、身動きができないほどのにぎわいを見せます。

(浪江町商工会HP)

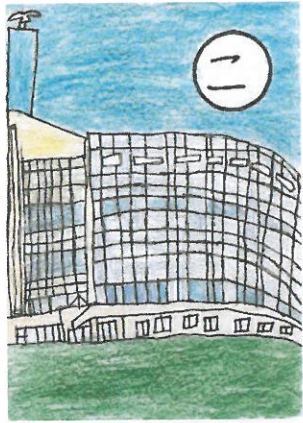


新町通り：訪問日当日



感想

新町通りでは、十日市をやっていたし、いろいろな店がたくさんあったけど今は、ガソリンスタンドしかやってないです。『みしい』から『にぎやか』になってほしいです。



浪江町の中心  
にあり  
二

場所

浪江町役場

訪問日

令和2年4月6日

作成者

久米田 滉斗 (当時6年生)



えがおがね  
たくさんさくよ  
浪江町  
え

★ 調べて分かったこと

【浪江町役場】

平成8年11月、町のさらなる発展と町民サービスの一層の向上を図るため、役場庁舎を新築しました。

(浪江町HP)

〒979-1592 福島県双葉郡浪江町大字  
幾世橋字六反田7-2

[代表電話] 0240-34-2111

○ JR 浪江駅から徒歩で約15分

○ 常磐自動車道  
浪江ICから約10分

作成者

須藤 嘉人 (当時1年生)



まち・なみ・まるしえ：平成30年10月



浪江町役場：訪問日当日

感想

町役場は、働いている人がたくさんいました。となりのまるしえは買い物をしている人がいました。にぎやかで楽しくて笑顔がたくさんある浪江町になってほしいです。



ゆ  
 丈六公園 自然遊具  
 じょうろくこうえん しぜんもいっぱい じゆうぐかいっぱい

場所

丈六公園

訪問日

令和2年4月6日

作成者

小船井 晴彦 (当時4年生)

★ 調べて分かったこと

【丈六公園】

桜・つつじの名所としても知られ、花の時期には多くの見物客で賑わいます。山頂には展望台があり町が一望でき、標葉公初代の母といわれる徳姫が尼となって建立したといわれる阿弥陀堂があります。

(浪江町HP)



新緑の丈六公園：浪江町HP

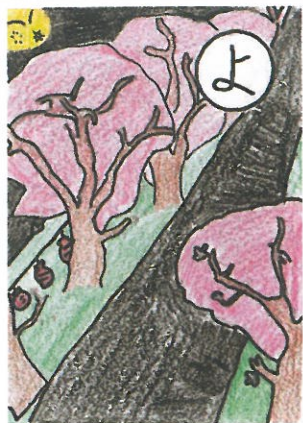


丈六公園：訪問日当日

丈六公園には、道が見えないほど草が生えていました。人が来なかったので

感想

草が生えていたと思いました。  
 震災前は、浪江小学校の1、2年生が春の遠足で行っていたそうです。これから人が来て遊んでほしいです。



よ  
夜桜が  
とてもきれいな  
リバーライン

場所

請戸川リバーライン

訪問日

令和2年4月6日

作成者

佐藤 健登 (当時5年生)

★ 調べて分かったこと

【請戸川リバーライン】

ふくしまの遊歩道50選に選定された美しい観光名所で、請戸川の土手、約1.5kmにわたり120本のソメイヨシノが咲き誇ります。

春は絶好の散歩コースとなり、夜にはライトアップされた満開の桜を楽しむことができます。

(浪江町HP)

【請戸川】

- ・二級河川。別名泉田川、室原川。
- ・水源は、日山。延長44.8km。
- ・津島地区を東へ流れ大柿ダムへ注ぐ。
- ・大柿ダムの前後は急流。谷を刻み室原川溪谷と呼ばれる。不動滝がある。
- ・請戸地区で高瀬川と合流し、太平洋に注ぐ。
- ・流域のほとんどを国道114号が並走する。

(ウィキペディア)



春のリバーライン：令和2年6月



リバーライン：訪問日当日

感想

この日は、木桜を見ている人や木桜の木枝を七刀っている人が5人くらいいました。木桜を見に来る人のために手入れしていると思いました。たくさんの人に見に来てほしいです。





た  
大漁旗  
請戸になびく  
出初め式

場所

## 請戸漁港

訪問日

令和2年8月28日

★ 調べて分かったこと

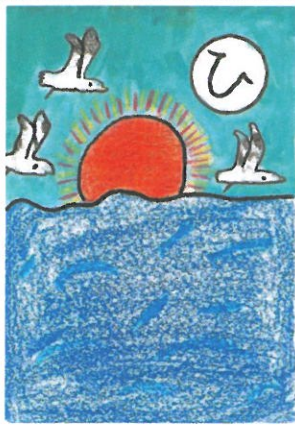
### 【請戸漁港】

令和2年4月8日、東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた請戸漁港において、9年ぶりに競りが再開されました。現在は試験操業が行われています。これまで水揚げされた魚介類は、相馬市の荷捌き施設に運ばれ競りにかけられていましたが、“競りの再開”を機に、水揚げされた魚は“地元”で競りにかけられるようになります。

### 【出初式】

出初式は毎年1月2日に行われており、新しい年における海上の安全と豊漁を祈願するものです。東日本大震災により開催中止を余儀なくされていましたが、避難指示の解除・漁港の整備に伴い、平成30年に7年ぶりに復活しました。  
(浪江町HP)

作成者 佐藤 健登 (当時5年生)



し  
日かのぼる  
一番早い  
浪江町

作成者 三瓶 薫 (当時6年生)



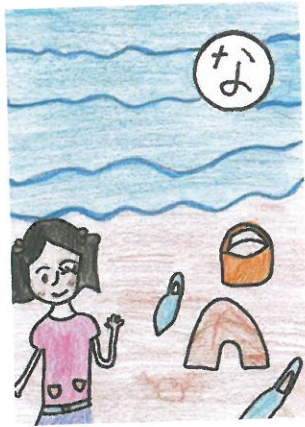
出初式：浪江町HP



しらすの競り：訪問日当日

感想

ぼくは、言請戸漁港や出初式  
が復活したのがよかったと思っ  
ました。復活したのは、漁師の  
やりたいという思いがあったからです。



な  
なつかしい  
請戸の海で  
すな遊び

作成者 瀬尾 瑠衣菜 (当時5年生)



つ  
フリ糸を  
たらしめて待った  
請戸港

作成者 渡部 雅晴 (当時5年生)



請戸漁港：訪問日当日

場所

浪江の海

訪問日

令和2年8月28日



わ  
わあびっくり  
大きな花火  
夏祭り

作成者 瀬尾 悠月 (当時2年生)

★ 調べて分かったこと

【請戸海水浴場】

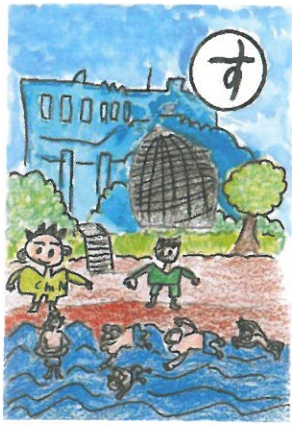
福島県でも屈指の海水浴場で、夏の盛りには、大勢の家族連れで賑わいました。サーフィンに適した波が打ち寄せる海岸としても知られ、地元のサーファーはもとより関東地方など近県から多くのサーファーが訪れました。(浪江町HP)



浜祭り：浪江町HP

感想

ぼくは、フリ糸を試してみても海に  
ゴミがたくさんうかんでてきれ  
いにしたりと思いました。  
でも魚がたくさんつれてうれしかったです。



す  
すずしいな  
マリパークで  
水遊び

場 所

マリパーク

訪問日

令和2年8月28日

作成者

須藤 真司 (当時3年生)

★ 調べて分かったこと

【マリパーク】

プラネタリウムのある本館「コスモパレス」を中心に、「サッカーコート」が2面とれる全面芝張りの「運動広場」や、ナイター仕様3面を含む6面の「テニスコート」、27ホールを擁する「パークゴルフ場」、地元特選牛である「双葉牛」や請戸漁港から水揚げされた新鮮な魚介類を使ったバーベキューが食べられる「バーベキュー棟」がありました。(浪江町HP)



マリパーク：浪江町HP



漁港屋上から：訪問日当日



漁港屋上から：訪問日当日

感想

請戸地区は建て物が津波に流されて、なかったです。マリパークは、ありましたが、カルタのイメージとは全然がいました。また人が来てほしいと思いました。



あ  
 安波祭  
 心が集まる  
 左るみこし

場所

請戸小・安波祭

訪問日

令和2年8月28日

作成者

三瓶 薫 (当時6年生)

★ 調べて分かったこと

【請戸小】

海から約300mのところであり、東日本大震災で高さ約15mの津波が直撃しました。82人の児童と先生方は、約1.5km離れた大平山



へ避難して全員無事でした。

現在震災遺構として公開するため、準備を進めています。

【安波祭】

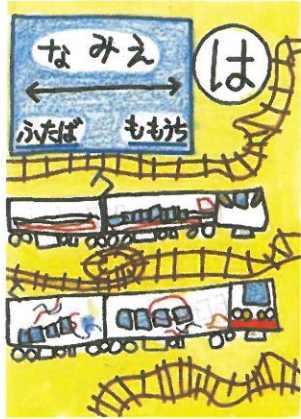
請戸地区の荻野(くさの)神社などで行われていた海上安全・豊漁および豊作を祈念したお祭りです。



大平山：訪問日当日

感想

言請戸小の部屋がぐちゃぐちゃになっていて津波はここまで来たんだなと考えました。ひなんした大平山まで1.5kmあって津波がここまで来てこわかったと思います。



は  
 パパと見た  
 なみえの電車  
 スーパーひたち

場所

浪江駅

訪問日

令和2年8月28日

作成者

小船井 晴彦 (当時4年生)

★ 調べて分かったこと

【浪江駅】

3月14日、東日本大震災の影響で運転を見合わせていた「JR常磐線」“浪江駅～富岡駅間”の運転が再開し、全線再開通しました。令和2年3月14日の早朝、震災後「終着駅」となっていた浪江駅から、上りの普通列車が出発したことにより、9年ぶりに全線で運転が再開しました。

(浪江町HP)

【電車運行】

全線再開通以降は、特急「ひたち」が「品川・上野～浪江～仙台駅間で一日上下線計6本」、普通列車は「広野～浪江～原ノ町駅間で一日上下線計22本」が運転されます。

(浪江町HP)



浪江駅：訪問日当日

感想

令和2年3月14日までは電車が通って  
 なかったのにこの日から電車が通って  
 いました。ぼくがいった8月28日にたく  
 さんの方がのっていました。



ね  
願ねがいごと  
たくもんしたよ  
初はつ発はつ神じん社しゃ

場 所

初 発 神 社

訪問日

令和2年8月28日

作成者

瀬尾 瑠衣菜 (当時5年生)

★ 調べて分かったこと

### 【初発神社】

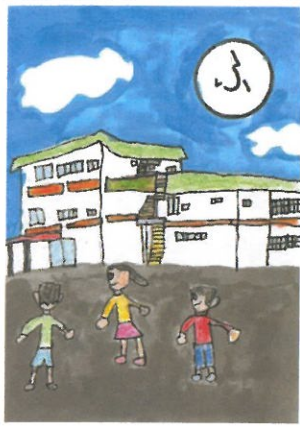
本殿は、相馬中村藩主昌胤が元禄14年（1701年）に退隠後に北幾世橋北原の地に移り住み、北方の金ヶ森に造営させたという養真殿（御浄所）の遺構であると推定される建物です。殿内は、奥から出幅約半間ほどの部分の床を一段上げた内陣として神符（現在は、神輿を安置）を祀り、内外陣共黒塗りの拭板敷き、天井は外陣が花瓣と唐草文様を描く格天井、内陣のそれは竜を描く打上げ天井です。また、殿内の板壁には唐獅子等を描き、斗拱や頭貫・木鼻・墓股・欄間・内陣扉・腰などの各部にも、ほぼ隙間なく彩色文様を描いてあり見事なものです。これらの機能や形態の上からみて、県下の社寺建築遺構中の特異な存在です。平成18年4月、福島県より重要文化財として指定を受けました。  
(浪江町HP)



初発神社：訪問日当日

感想

ネノ発ネ申ネ土のニ世の水がなくなっていました。浪江ネ申ネ土より小さかったけどきれいでした。カルタの糸会は木が小さいけど行った日時は木が大きくなっていました。



ふ  
ふれセンは  
浪江の人の  
いこいの場

場所

ふれあいセンターなみえ

訪問日 令和2年8月28日



れ  
練習で  
汗を流した  
陸上大会

作成者 久米田 滉斗 (当時6年生)

作成者 山本 史奈 (当時6年生)



ろ  
老人も  
グラウンドゴルフで  
大がたやく

作成者 佐藤 健登 (当時5年生)



ふれあいセンターなみえ:浪江町HP

★ 調べて分かったこと

【ふれあいセンターなみえ】

保健福祉施設や町の中央公民館、町の図書館などがありました。そのほかにサッカーや野球、ソフトボールなどができる運動公園もありました。この施設は浪江町に住む人の健康を守ったり、学校以外でも学習したりするための施設としてつくられました。平成8年4月にふれあいセンターなみえ運動公園がオープンし、平成10年2月ふれあいセンターなみえオープンしました。  
(郷土学習資料集：探検発見すてきな浪江町)

東日本大震災の影響で使用が難しくなったために令和元年冬に取り壊され、今後新たな複合施設に生まれ変わる予定です。

感想

前は浪江の人のいこいの土場  
だったけど今はやていなくて  
グラウンドゴルフやサッカーがで  
きなくてかわいそうだと思います。



う  
 浦安の  
 舞を奉納  
 標葉神社

場所

標葉神社

訪問日

令和2年10月30日

作成者

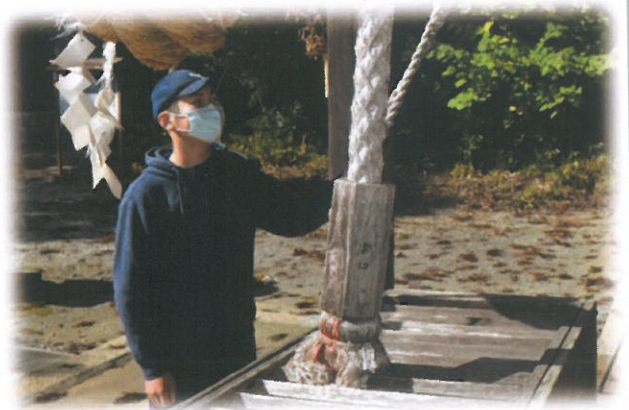
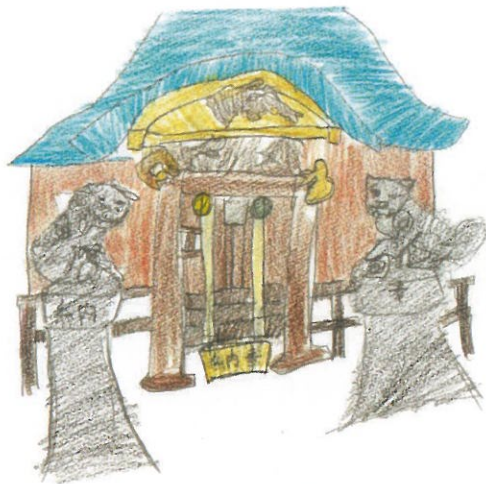
山本 史奈 (当時6年生)

★ 調べて分かったこと

【標葉神社】

苜野地区にあります。鎌倉時代から戦国時代に標葉郡（今の浪江町・双葉町・大熊町・葛尾村）を治めた標葉氏ゆかりの神社です。スサノオノミコトを祀っています。標葉（しねは）という名称は、今も相馬野馬追の標葉郷として残っています。

苜野には、戦国時代に標葉氏を支えた標葉七人衆の一人、苜宿能登守倶家の居館・苜宿館があったようです。



標葉神社：訪問日当日

感想

東日本大震災後浦安の舞を明治神宮でおどっていたそうです。偶然いたぐうじさんに出会いを教えてくださいました。神社の言ひ日月やお札をもらいました。ぐうじさんとの出会いを大七刀にしたいです。





い  
いちばん  
一番に  
大きな実をとる  
なし畑

場所

## 苧野地区

訪問日

令和2年10月30日

★ 調べて分かったこと

### 【梨】

上ノ原地区と立野地区には、約30haの梨農園で栽培されていました。主に幸水・豊水・新高で、有機栽培で栽培・生産されており、大変甘く、浪江町の特産品の一つでした。収穫の最盛期は8月下旬から10月上旬ころで、旬の味覚を楽しみに訪れる人々が多くいました。

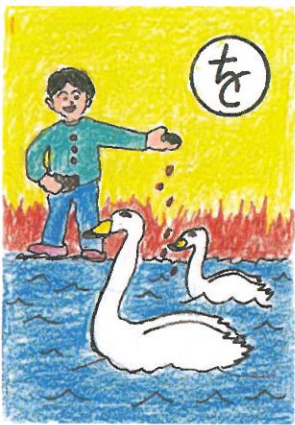
### 【立野の白鳥】

立野地区にある堤には、冬の便りとともに毎年たくさんの白鳥が訪れていました。



立野の白鳥：浪江町HP

作成者 瀬尾 悠月 (当時2年生)

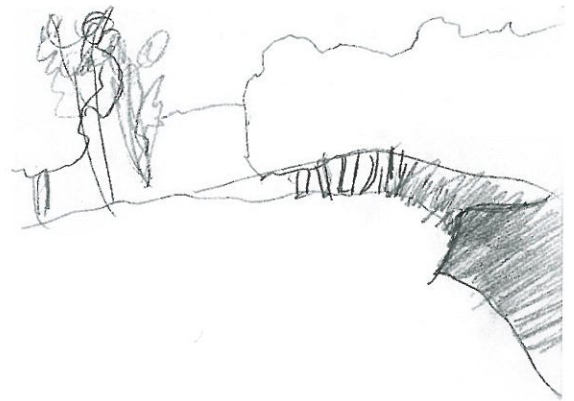


を  
エサをやる  
毎年立野に  
来る白鳥

作成者 松本 優輝 (当時4年生)



立野の堤：訪問日当日



感想

えさをやる人がいなかったから白鳥がこないと思いました。なし畑は、みつきりませんでした。そのかわりオリーブの畑がありました。



き  
きれいな  
赤白コスモス  
町の花

場所

コスモス  
(坂田・藤橋地区)

訪問日

令和2年10月30日

★ 調べて分かったこと

【町の花】

荒地にも生き、優しい姿で、町民の優しく、力強く生きることを願うとともに、秩序と調和のある町を象徴しています。

(浪江町HP)

【コスモスマラソン大会】

毎年10月の第3日曜日に、権現堂地区で開催されていたマラソン大会です。

作成者 今野 笑瑠捺 (当時4年生)



ぬ  
ぬかれずに  
全力で走った  
コスモスマラソン

作成者 久米田 滉斗 (当時6年生)



コスモス (酒井地区) : 浪江町HP



コスモスマラソン大会 : 浪江町HP

感想

コスモスが家にさいっていました。

コスモスは、過辛難した町民が力強く生きるためにさいっていると思いました。



お  
おのみそか  
除夜の鐘なる  
大聖寺

場 所

大 聖 寺

訪問日

令和2年10月30日

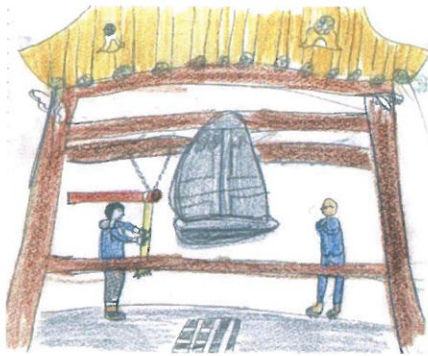
作成者

佐藤 穂乃香 (当時3年生)

★ 調べて分かったこと

【大聖寺】





元禄14年(1701)相馬中村藩6代藩主相馬昌胤(そうままたね)は、37歳で家督を養子である叙胤(のぶたね)に譲り、現在の大聖寺の後方に当たる場所に、享保13年(1728)に没するまで住みました。昌胤の住んだ館の正門の遺構は現在の大聖寺山門として残っており、その扉はかつての館の裏門で使われていたものです。なお、山門左手にある銅鐘(国指定重要美術工芸品)は、宝永6年(1709)昌胤が奉獻したものです。また、境内には東北地方南部では珍しいアカガシの樹群(県指定天然記念物)がみられるとともに、江戸後期上層民家の造りを示す旧渡部家住宅(県指定重要文化財)があります。文明6年の銘のある紙本著色両界種子曼荼羅(県指定重要文化財)も所有しています。(浪江町HP)



大聖寺：訪問日当日

感想

たくさんの重要文化財があってすごいと思いました。その1つの金鐘を9回たたきました。大きな音がして手が冷えました。住職さんは「希望の鐘」と言っていました。ぼくが震災後初めての見学者で「うれしい」と言っていました。

	<p>ち 稚魚放流 もどっておいで 泉田川</p>	<p>場所 泉田川(鮭)</p>
<p>作成者 瀬尾 瑠衣菜 (当時5年生)</p>	<p>訪問日 令和2年10月30日</p>	
	<p>て 定食か おいしいヤナ場の はらこ飯</p>	<p>★ 調べて分かったこと</p> <p>【請戸川の鮭狩り】 請戸川(泉田川)のヤナ場は、市街地の南部と北部を流れる高瀬川と請戸川の合流点に程近い所に位置し、幅120mと東北一の規模を誇っており、そこでは10月中旬から11月中旬頃の最盛期を中心とし、9月下旬から11月下旬まで鮭狩りが行われました。川幅いっぱいの網を流し、徐々にたくり寄せながらの曳網漁は爽快そのもの。最盛期には1日1,000尾から3,000尾もの水揚げがあり、年間では70,000尾から100,000尾の漁獲高をあげていました。また、近くには泉田川観光食堂があり、活きのいい生鮭がその場ですぐ調理され、爽快でボリュームのある数々の鮭料理が味わえました。 (浪江町HP)</p>
<p>作成者 佐藤 健登 (当時5年生)</p>	 <p>やな場跡：訪問日当日</p>  <p>食文化体験：令和2年11月</p>	
<p>感想</p>	<p>泉田川で魚を見ても大きくてびっくりしました。食文化体験で魚を初めて食べて、魚がぬるぬるして七かりづらかったです。包丁がふわふわの包丁じゃなかったです。</p>	



や  
 山と川  
 津島の自然は  
 日本一だ  
 と思いました

場所

津島地区

訪問日

令和2年10月30日

作成者

須藤 伶 (当時6年生)

★ 調べて分かったこと

【森林ボランティア】

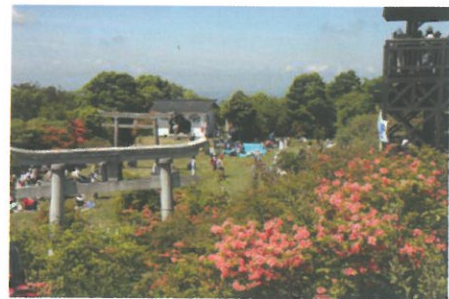
津島地区の国有林で、4月ごろに「ケヤキ」「山桜」「ミズナラ」などの苗を植林するボランティア活動が行われていました。



森林ボランティア（津島地区）：浪江町HP

【津島五山】

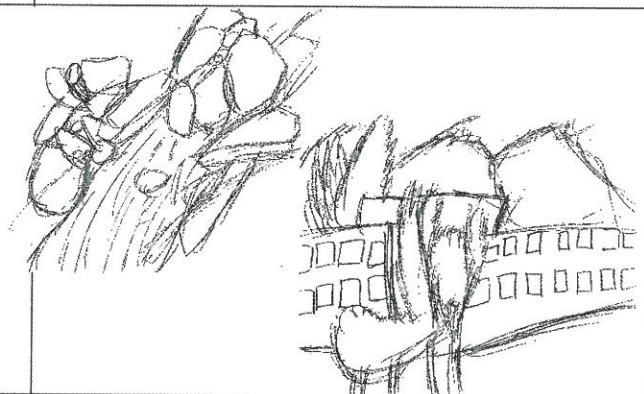
- ・日山（天王山）1,057m
- ・高太石山821m ・白馬石山821m
- ・中ノ森山803m ・葛船山566m



日山の山開き：浪江町HP



津島地区原田川：訪問日当日 車窓から



感想

2才の時に退辛莫佳をして津島のこと  
 は、おぼえていません。秋に見に  
 行って糸工業になっている山ときれいな川  
 を見て、津島の自然は日本一だと思いました。



へびもいた  
いなもいたよ  
田んぼには

作成者 須藤 伶 (当時6年生)



虫がゴに  
クワカタ入れて  
大喜んだ

作成者 小船井 晴彦 (当時4年生)

場所

## 自然豊かな浪江町

★ 調べて分かったこと

### 【浜通りのまんなか 浪江町】

福島県の沿岸部である浜通りのほぼ中央に位置する浪江町は、東は太平洋に面し、西は阿武隈山系に囲まれ、山も、川も、海もある自然豊かなまち。

東北地方といっても冬はほとんど積雪がなく、夏は涼しく過ごしやすい。

東京や仙台から電車ならJR常磐線、車なら常磐自動車道一本でアクセスもラクラク！



(浪江町HP)



ありし日の浪江の田園風景



鮎釣り：浪江町HP

感想

クワカタヤカブト虫が夏に浪江町の森にいたと思います。へびやいなごもいたと思います。自然豊かなところが楽しそうだと思います。



か  
川岸で  
家族で楽しむ  
いも煮会

作成者 山本 史奈 (当時6年生)



け  
溪谷が  
もみじで染まる  
高瀬川

作成者 渡部 雅晴 (当時5年生)

場所

高瀬川

訪問日

(訪問できなかった)

★ 調べて分かったこと

【高瀬川溪谷】

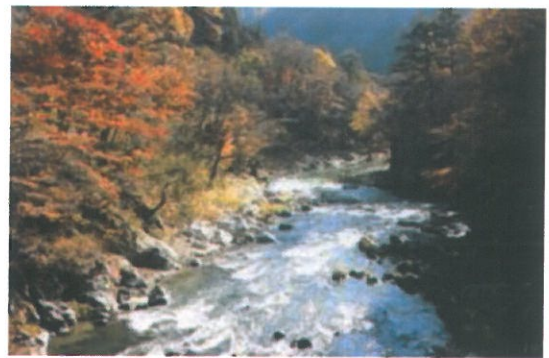
阿武隈山系を源とする阿武隈中部県立自然公園高瀬川溪谷は、四季折々の自然の美しさや、奇岩、怪石をぬう急流など、俗化していない自然が心をあらためさせてくれます。

溪谷内には遊歩道があり、川のほとりの散策、町出身の作曲家佐々木俊一氏の「高原の駅よさようなら」の譜碑見学もできます。また、山頂からの眺望がすばらしい手倉山(標高631m)や山頂までの道々に干支の十二支が祭つてある戸神山(標高430m)など、手軽に登れる山もあります。

(浪江町HP)



ふれあいハイキング:浪江町HP




高瀬川:浪江町HP

感想

高瀬川は見にいけなかったけど、  
請戸川の溪谷は水がきれいで、  
春は新緑がきれいで、夏は緑がこ  
くて、秋は紅葉で色あざやかでした。



  
 三匹獅子  
 津島にひびく  
 太鼓の音

場所

三匹獅子

活動日

令和2年7月1日

作成者

須藤 伶 (当時6年生)

★ 調べて分かったこと

【三匹獅子】

上津島地区に伝承されています。言い伝えによると、江戸時代徳川家康が亡くなり、全国に遺髪が配布されて権現壇が各地につくられました。その際氏神として東照権現を祀ったのが、かつて上津島にいた今野洋一さんの祖先であり、その時一緒に伝わったとされています。

毎年10月の第一日曜日に津島稲荷神社で行われる秋の例大祭に奉納します。また、その年新築した家や要請があった家も10か所ほどで踊ります。

三匹獅子舞は、農家の豊作を祈って踊ります。二匹の雄獅子が一匹の雌獅子を奪い合う内容を中心としています。獅子は、小学3・4年生の男児が演じます。

(庭元 今野正悦さん資料)



伝統文化体験：平成27年4月



伝統文化体験：令和2年7月

感想

今野正悦さんに三匹獅子を教え  
 てもらって、足踊りと歴史がわかりました。  
 東日本大震災の前に、三匹獅子の足踊り  
 を教えていた今野予さんは、三匹獅子  
 を復活してほしいと思っています。





(そ)  
 相馬焼  
 伝統工芸  
 復活だ

場所

## 大堀相馬焼

活動日

令和2年7月7日

★ 調べて分かったこと

### 【大堀相馬焼】

ひび割れ、二重焼き、駒の絵などの特徴を有し、町民はもちろん地域のみなさまに広く親しまれてきた伝統的工芸品です。2011年3月の東日本大震災と原発事故により、23軒あった窯元はすべて町外へ避難を余儀なくされましたが、一部の窯元は各地で窯の再建を果たしているほか、協同組合としてもたくさんの活動をしています。



(大堀相馬焼協同組合HP)

作成者 山本 史奈 (当時6年生)



(ほ)  
 ぼくの夢  
 ろくろで  
 大堀  
 相馬焼

作成者 渡部 雅晴 (当時5年生)



伝統文化体験：令和元年9月



感想

大堀相馬焼体験をしてろくろであまりうまくできなかつたけど楽しかったです。はしおきは、おもしろい形のはしおきを作って楽しかったです。



せ  
絶品だ  
なみえ焼きそば  
ぜひ食べて

作成者 佐藤 穂乃香 (当時3年生)



に  
日本一  
なみえ焼きそば  
グランプリ

作成者 三瓶 晴奈 (当時2年生)

場所

## なみえ焼そば

活動日

令和2年10月23日

★ 調べて分かったこと

### 【なみえ焼そば】

浪江町の安くておいしい、昔から親しまれる極太麺。約50年前、労働者のために食べ応えと腹持ちをよくするために考案されたとされています。通常の約3倍もある太い麺と、うまみたっぷり濃厚ソース、豚肉とモヤシだけのシンプルな具が特徴です。一味唐辛子を振りかけて食べるのが通な食べ方とされます。

#### ◎なみえ焼そばの定義

その1：中華麺の太麺

を使う

その2：具材はモヤシ

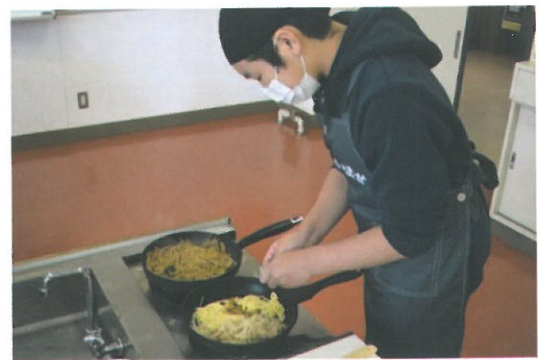
と豚肉を基本

その3：ソース味であること

(浪江焼麺太国HP)



サミットに向けて：令和元年11月



食文化体験：令和2年10月

感想

B-1グランプリで郡山に六才爰に行きました。「すぎのや」に見学に行きました。運重か会でなみえ焼きそばを作ってもらいました。今年は、ぼくが家庭科で作りました。かんたんでおいしかったです。



も

もういちど  
たべたくなるよ  
かぼちゃまんじゅう

場所

かぼちゃまんじゅう

活動日

令和2年11月13日

作成者

須藤 嘉人 (当時1年生)

★ 調べて分かったこと

【かぼちゃまんじゅう】

かぼちゃには栄養があって、浪江でもたくさん栽培されていました。そのかぼちゃを生地に練りこんで、まんじゅうにしたそうです。

平成17年11月1日にオープンした「つしま活性化センター」でもつくって販売していたそうです。



食文化体験：平成27年5月



食文化体験：令和2年11月

感想

ぼくは、2年生の時初めて作りました。だけど忘れてしまい、もう1回やりました。教えてくれた千代さんは、おいしく食べてほしいし、かぼちゃまんじゅうを知ってもらいたいと思っています。



ま  
またおいで  
となりのおばちゃん  
お友だち

場所

浪江町のやさしい人たち

活動日

ふるさとなみえ科の活動

作成者

瀬尾 瑠衣菜 (当時5年生)

★ お世話になった浪江町の皆さん



請戸漁港



標葉神社



大聖寺



三匹獅子



大堀相馬焼



かぼちゃまんじゅう



紅葉汁



植花活動



まるごとなみえっ子運動会

感想

「またおいでとなりのおばちゃんお友だちは、ぼくにとってキイダさんだと思っています。今年は、たくさんの行事でいろいろな人に感謝を伝えられました。」



浪江町  
歌えばそこに  
「ん」だげんちよ

場所

んだげんちよ

作成者

今野 笑瑠捺 (当時4年生)

【んだげんちよ】

平成27年5月に福井県出身のレゲエ歌手シング・ジェイ・ロイさんを迎え、生活の一コマを浪江の言葉で表現し、レゲエ音楽に乗せて歌いました。この歌にダンスを振りつけました。O・TEダンススクールの指導で、ヒップホップ風にアレンジしていただきました。仮設訪問や十日市祭等で多くの町民の方々に喜んでいただきました。

平成30年10月には、町民の方々に「んだげんちよ」により親しんでいただき、笑顔・元気を多くの方に届けたいと考え、シング・ジェイ・ロイさんと「んだげんちよ」の続きの歌詞を作りました。浪江町や二本松市で働く方へのインタビュー活動を通して得られた言葉や、町民へのアンケート結果から、キーワードとして分類・整理してつくりました。当日は、なみえ創成小学校とTV会議システムでつないで意見を求めたり、学校応援の会の方々にも協力していただいたりしました。ニューバージョンは、町の保健師さんの助言を受けて、健康作りのきっかけとしてもらうため、ダンベル体操とコラボしました。振り付けは、宮城教育大学の鈴木先生にお世話になりました。



プレ十日市祭：平成29年11月

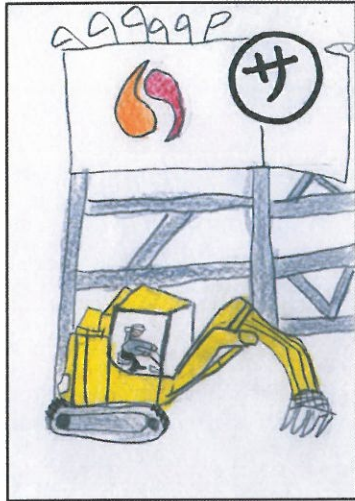


十日市祭：平成30年11月

感想

「んだげんちよ」は、浪江町の人を元気にするもの  
です。十日市や仮設訪問で楽しんでもら  
いました。ぼくにと「んだげんちよ」は、楽しくが  
んばってきた小学校生活の大切な思い出です。

「なみえっ子カルタ R2 Ver.」

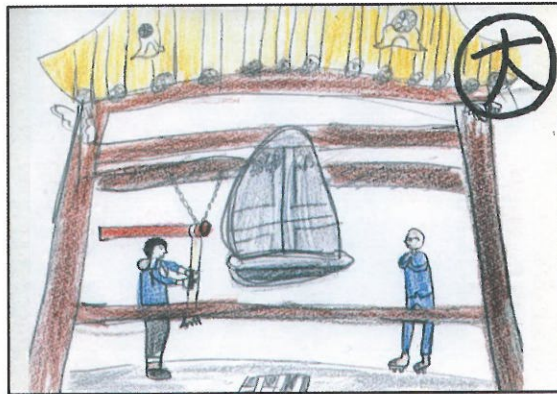


③ サ  
サンプルザ  
かいたいしてた  
さびしいな

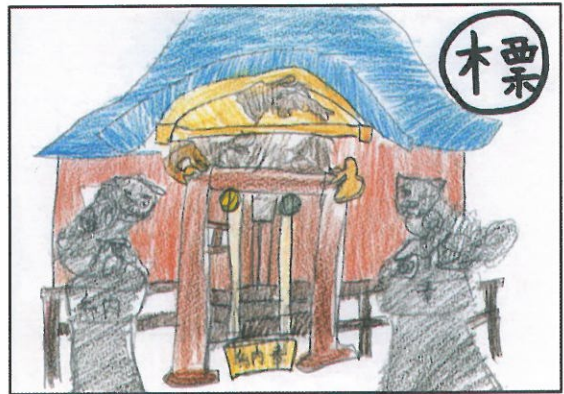


④ 請  
戸漁港  
しらすが大漁  
笑顔がたくさん

⑤ 大  
聖寺  
メ布七王の鐘だ  
さあつくぞ



⑥ 標  
葉神社は  
出会いの地  
一期一会



⑦ 十  
日市  
コロナで中止  
またやるぞ



# 春の浪江町新聞

発行日 R2.5月

発行者 嘉人



## さみしい新町通り

東日本大震災から九年たった令和三年四月六日、ぼくは六年生になりました。始業式が終わった後スクールバスで浪江町に行きました。春に関係あるなみえ子カルタを調べに行きました。

リバーラインは、百本本の桜が満開できれいでした。人は少なかったです。サンプラザはこわされていました。新町通りには人もお店も少なくなっていました。

## にぎやかになつて

四月六日に行つた時は、人はあまりいませんでした。でも家族でまるしえの前にあるスーパーに行ったら人が多くなりました。ぼくは人がたくさんいる浪江になつてほしいです。リバーラインの木もたくさん人が見に来てほしい。

## 夏の浪江町見学

請戸・蛸成世橋方面に行つて海でつりをしたり、大聖寺の鐘をたたいてみたい。

# 夏の浪江町新聞

発行日 R29月

発行者 嘉人



## 請戸の変化

東日本大震災の前は  
 たくさん家があつまし  
 た。出初め式や安波  
 取り、すな遊び、花火  
 など、楽しいことがたく  
 さんありましたが津波で  
 家が一新ね。今は、家  
 がありません。でも漁港  
 では、ガラスをせりに  
 かけてました。漁師サ  
 ンたちは、たくさんとね  
 てよろこんでいました。  
 漁をやりたいと言っ  
 漁師さんの田バいが  
 すごいと思いました。

## 楽しかったつり

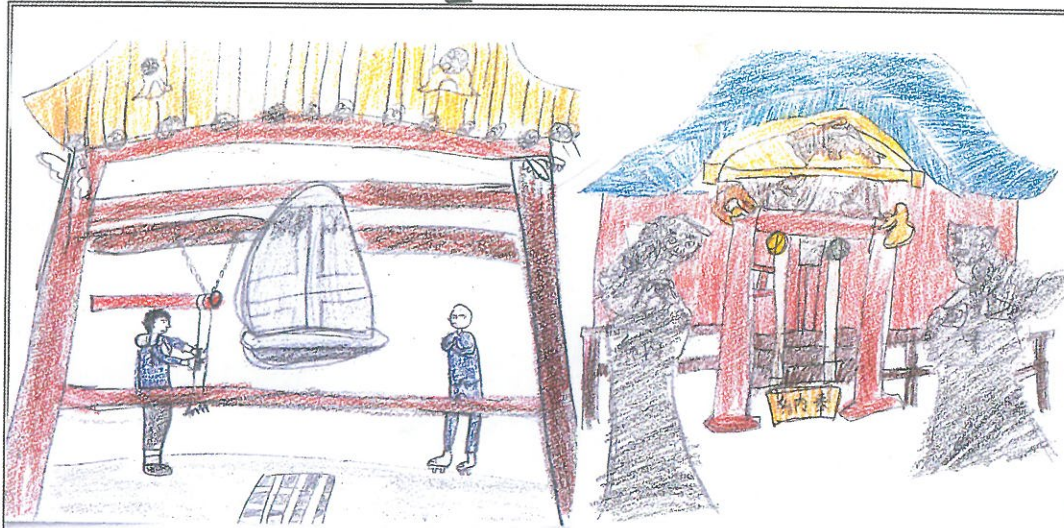
請戸漁港で  
 始めにしかけをつ  
 けました。次にフリ  
 をしてたくさんフリ  
 しました。家ではあ  
 ちんとぼくで魚を  
 サバいてあげて食  
 べました。またヤ  
 りたいです。

## 秋の浪江町見学

外野と津島や幾  
 世橋方面に行って  
 標葉神社を見て  
 比べたり、泉田川  
 で、鮭を見たり  
 津島の自然を見  
 てきたい。



# 大聖寺の銅鐘



秋の浪江町新聞

発行日 R2.11月

発行者 嘉人

(国指定重要美術工芸品) 標葉神社

## 出会いの標葉神社

ぐうじゅんが神様の  
名前(スサノオノニコト)  
を教  
えてくれました。  
出会いの話もしてく  
れました。この出会  
いを大切にしたいです。

うれしそうな住職さん  
大聖寺では、鐘を

九回たたいて、かめの  
石像を見ました。  
住職さんは、「雨辰火後  
初めての入でうれしか  
た。」と言っていました。  
ほくもあ守りをもっ  
てうれしかったです。

## 日本一の津島の自然

山は、黄色と赤の紅葉  
になっていてあざやか  
できれいでした。  
川の水は、とうめいでし  
た。津島小学校は、鬼  
たよりきれいでした。  
津島神社の三匹獅  
子を見てみたいで  
す。

## 後記

出会いを感  
じた秋の浪江町探  
険でした。標葉神社  
の井瀬さん、大聖  
寺の青田住職さん  
ありがとうございました。

# 三匹獅子新聞

発行日 R2.7月

発行者 嘉人

## 三百年の歴史

三匹獅子は、今から三百年前に始まりました。江戸時代徳川家康が亡くなり全国に長友を配りまうたのが始まりです。津島では、上津島地区だけに伝わっています。毎年十月第一日曜日に津島稲荷神社に奉納し、新しくできた家や要請のあった家を十か所ほど踊りました。



稲荷神社祭 三匹獅子奉納 2010.10.4

## 約十重百の足り

三匹獅子は、太郎獅子次郎獅子此獅子千本振り猿の五人で踊っています。太郎獅子の獅子かしらには、キバが二本あります。次郎獅子には一本、此獅子にはないです。

## 今野正悦さんについて

三百年やってきたと聞いておどろきました。今は、東日本大震災でバラバラで、でキナイそうです。またやってほしい。

# 大堀相馬焼新聞

発行日 R2.10月

発行者 喜入

## 歴史と特徴

今からおよそ三百五十年前に大堀の半谷休閑様の家来である左馬といつ人が始めたといわれています。江戸時代の終わりには、百戸以上の窯元がありました。

大堀相馬焼の特徴は、「五月ひび」と「走りごま」と「三重焼」です。

## 今年の四作品



- ① 茶わん：ちくろで作りまし。色は茶色で気に入っています。(お茶づけを入れる)
- ② 湯のみ：去年よりもゆがまなくて上手にできました。
- ③ 絵皿：馬の頭が小さくてバランスがとれました。
- ④ 本郷焼：会津の学習旅行で作りました。

## みんなで作った看板

は文字の看板を学校応援の会の方と先生方とぼくで作りました。ぼくは、物を作りまし。配置を考えまし。難しくてもやり直しまし。できがた看板を見てうれし。たす。

ご協力ありがとうございました



# 浪江の食文化

発行日 R2. 11月

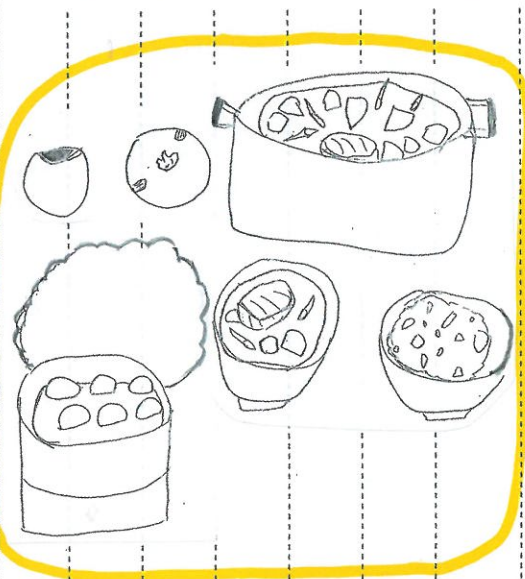
発行者 嘉人

## みんなで作った紅葉汁

初めに野ササを切り  
ました。大根をいちょう  
切りにししました。さといも  
は、三竹寺分に切りまし  
た。鮭は、石井さんが三  
枚におろして頭をとっ  
ていました。ぼくは、身を  
切りました。身がすべ  
て切りづらかったです。  
最後にみそで味をつ  
けました。魚がやわらか  
くておいしかったです。

## 津島の宝物

かぼちゃまんじゅう



ぼくは、生地の中にあ  
んこを入れてまるめま  
した。小さくならたり大  
きくならりしておずかし  
かったです。おし器に  
入れておしました。半分  
おしてできました。

## 勇気を出して聞いたこと

ぼくは、「どうしてかぼちゃを  
入れるのかを聞きました。

千代さんは、「かぼちゃに  
は、栄養素があります。  
とくにビタミンが多く  
あり冬にも食べべらな  
からです。」と教えて  
くれました。

## ふるさとの味

紅葉汁は泉田  
川の鮭を使って、  
かぼちゃまんじゅうは、  
津島のかぼちゃを  
使っています。ニラと  
も浪江の人にとって  
大切な食文化です。

## Ⅳ ふるさとなみえ科10年間の歩み

### 1 ふるさとなみえ科とは

総合的な学習の時間や生活科を中心に展開してきた郷土学習であり、浪江町立避難先再開小学校の教育活動の核

### 2 ふるさとなみえ科の目的

郷土を愛する心を育み、未来を創造的に生き抜くたくましい人間の育成を目指す。

### 3 ふるさとなみえ科創設の経緯と背景

学校教育1年間の計画は、前年度の11月から2月にかけて編成するのが多くの学校のスタンダードです。

平成23年8月に再開した浪江小学校においても、平成24年度の学校教育について前年度に計画を立てました。特に、避難先にある学校の役割について協議を重ねました。浪江を離れて学び・生活せざるを得ない状況が続くことを予想した当時の先輩教職員は、児童に地域文化に触れさせるプログラムを仕組む必要性を強く感じました。そこで、創設されたのが「ふるさとなみえ科」です。

平成25年度には、知・徳・体の学校教育目標を、

#### 【 浪江を愛し 未来に向かって 笑顔で生きる子ども 】

**なみえを愛し**＝大好きなふるさと浪江町の産業・伝統・文化等を学習し、浪江町の新たな発見や希望ある将来について考える子ども

**みらいに向かって**＝将来のなりたい自分に向かって夢や希望を抱き、何を学習し身に付けるべきかを自ら考える子ども

**えがおで生きる子ども**＝明るく元気で笑顔が絶えず、まわりの人も笑顔にできる子ども

に変えました。これは、1年間の取り組みが確信となり、「ふるさとなみえ科」を避難先再開小学校の教育の核としていく覚悟が、この学校教育目標改定だったと推察します。

また、平成26年度にスタートし双葉郡8町村協働事業である「ふるさと創造学」にも、少なからず影響を与えたと考えます。

## 4 ふるさとなみえ科の変遷

その時々<sup>1</sup>の在籍児童や町の復興状況等に応じて少しずつ形を変えながら、現在まで浪江町立避難先再開小学校の学校教育の核であり続けています。これまでの取り組みは、3つの時期にカテゴライズできます。

### (1) 前期（平成23～26年度）ふるさと浪江を思い出しながら、浪江町について学んだ時期

※正式には平成24年度スタートですが、平成23年度中に一部の内容を実施しているため、平成23年度も前期に加えます。

全児童が浪江町での思い出をもっていました。思い出をもとに浪江町カルタを作り、未来の浪江町について考え、模型にしました。仮設訪問を続け、町民とのつながりを大切にすることで、自分たちががんばることで町民を笑顔にできることを実感し、十日市祭にも積極的に参加しました。

町の伝統工芸や祭について学び、長く続く伝統文化やそれを守る人々の思いに触れました。

### (2) 中期（平成27～30年度）2つのふるさとを比べながら学んだ時期

この時期の児童は、浪江町で生活した月日より、二本松市で生活した月日が長くなっていました。そこで、二本松市と比較させながら学びを展開し、ふるさとのより深い理解を目指しました。

伝統を守り続ける人。新しいことを取り入れる人。ここで働くことを決めた人。多くの人と触れ合いながらたくさん<sup>2</sup>のことを学び、人々のふるさとへの思いの深さに気づきました。

「なみえっ子カルタ」や「んだげんちょ」など、児童が直接表現・発信するアイテムを備えて、積極的に町民の方々との交流やイベントに参加しました。

### (3) 後期（平成31～令和2年度）休校を目前にした総まとめの時期

休校の現実を前に、「何をどう残すのか」「何をどう伝えるのか」という問いに、正面から立ち向かった2人の児童は、浪江小学校10,895番目・昭和58年統合後の津島小学校685番目で、最後の卒業生となりました。

今まで学んできたことを年表に表し、支援・応援してくださった人々との交流の歴史をまとめました。

学びの足跡を一カ所にまとめ、整理して博物館として残す活動に取り組みました。また、カルタに描かれた地を巡る浪江町探検を通して、感じた思いを冊子にまとめ、伝えていくことにも取り組みました。今まで学んできたことを振り返り、学び直しをすることで、新たな発見が生まれ、ふるさとをより深く考えるきっかけとなりました。

## 5 ふるさとなみえ科4つの学習プログラムと主な内容

### (1) ふるさとの良さを発見する

浪江町で暮らした記憶がほとんどない児童にとっても、浪江をふるさとして意識し、そのふるさとの風情や暮らしの良さを発見する機会となりました。

#### ①なみえっ子カルタ

学習の成果として、ふるさと浪江町への想いをカルタに表してきました。「自分たちが作ったふるさとカルタで浪江の皆さんに元気になってほしい。」という願いを込めて、カルタ作りの集大成として、平成27年度に「なみえっ子カルタ」を完成させました。

浪江小・津島小児童15人が、それまでの卒業生や自分たちがまとめてきたカルタをあらためて描き直しました。およそ200枚の中から、地区やジャンルのバランスを考えながら50音順に46枚を分担して作成しました。絵本作家の飯野和好様に、絵のポイントなどをご指導いただきました。児童はふるさと浪江に想いを寄せながら一枚一枚ていねいに仕上げました。

完成した「なみえっ子カルタ」は卒業生や各仮設住宅、ご支援いただいている多くの方々、そして浪江町役場に寄贈いたしました。当時の故 馬場有町長様とも、完成したカルタを一緒に楽しみました。

令和2年度は、浪江町立避難先再開小学校最終年であることから、「ふるさとなみえ科」の学びを丁寧にまとめて、未来に残すことの一環として、「なみえっ子カルタ」ゆかりの場所を直接訪れる取り組みを行っています。春と夏、秋の3回浪江町を巡ってきました。



## ②んだげんちょ



「んだげんちょ」は、平成27年5月に福井県出身のレゲエ歌手シング・ジェイ・ロイ様をお迎えし、「んだべ」「めんげ」「さすけね」「おもせ」等の方言を始め、生活の一コマを浪江町の言葉で表現し、一人一人の心に息づくふるさとを調子の良いレゲエ音楽に乗せて歌った曲です。

そして、この歌にダンスを振りつけました。現在のものは、O・T Eダンススクールの指導を得て、ヒップホップ風にアレンジしたものになります。仮設訪問や十日市祭等で多くの町民の方々に喜んでいただきました。平成29年度12月には、「第5回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール」への出場を果たしました。大会では、児童5人が心一つに精一杯踊り、審査員や会場の皆さんからたくさんの拍手と好評をいただきました。全国のみなさんに感謝と元気を届けられたことに児童は満足していました。



更に、町民の方々に「んだげんちょ」により親しんでいただき、笑顔や元気を多くの方に届けたいと考え、平成30年10月に、シング・ジェイ・ロイ様に再度お力添えをいただいて、「んだげんちょ」の続きの歌詞を作りました。歌詞は、児童が、浪江町や二本松市で働く方へのインタビュー活動を通して得られた言葉や、町民へのアンケート結果から、候補となる言葉をキーワードとして分類・整理してつくりました。当日は、なみえ創成小学校とTV会議システムでつないで意見を求めたり、学校応援の会の方々にも参加していただいたりして完成させました。

ニューバージョンは、ダンスではなく、町の保健師さんの助言を受けて、健康づくりのきっかけとしてもらうため、ダンベル体操とコラボしました。振り付けは、宮城教育大学の鈴木先生にお世話になりました。令和元年9月に行われた「浪江町ダンベル交流会」に参加し、なみえ創成小学校の児童と一緒に披露しました。



のきっかけとしてもらうため、ダンベル体操とコラボしました。振り付けは、宮城教育大学の鈴木先生にお世話になりました。令和元年9月に行われた「浪江町ダンベル交流会」に参加し、なみえ創成小学校の児童と一緒に披露しました。



### ③なみえ新聞



様々な学習活動を通して、分かったこと・気づいたこと・考えたことを、表現したり振り返ったりする場として、「なみえ子ども新聞」にまとめてきました。

平成25年6月には、NHK取材記者の佐藤真莉子様や読売新聞記者の傍田光路様を講師にお迎えし、取材の仕方や記事の書き方について話を聞いたり演習を行ったり

りました。以来学びのまとめとして作成してきました。

まとめた新聞は、「十日市祭」や「ふるさとなみえ交流会」、「成果発表会」などで披露することで、町おこしの一翼も担いました。



## (2) 伝統文化を学ぶ

伝統工芸・食・祭・その他について学び、特に、本物との出会いを大切にしてきました。平成27年度からは、物事を多面的に見る力を育てるために、仮校舎があり、第二のふるさととも言える二本松市の同じ分野について調べ、浪江町のそれと比較させるようにしました。

ふるさとを離れても伝統文化を維持しようとする人々の心意気に触れることができたことは、とても意義深いものとなりました。また、他地域と比較して学ぶことにより、自分たちのふるさとの魅力を再発見すると同時に、他地域の良さも理解することができました。

## ①伝統工芸

### 【大堀相馬焼】

平成24年に大堀相馬焼協同組合二本松工房が再開をしてから平成30年度までは、工房に出かけて行って、低中学年は手びねりで皿や湯飲み、高学年はろくろで湯飲みや茶碗をつくったり絵付けをしたりしてきました。工房が閉じた令和元・2年度は、理事長の小野田利治様に来校いただいて、学校で親子体験教室を行いました。



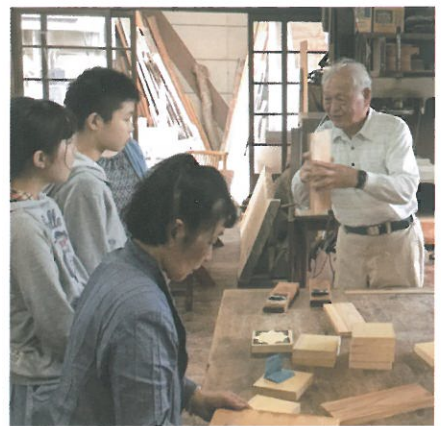
新博物館看板の題字も大堀相馬焼で作成し、お世話になりました。



平成28年7月には、京月窯の近藤京子様から、平らな粘土から作る新しい体験をさせていただきました。

### 【二本松家具城家筆筒】

平成28年9月に、鈴木木工所を訪問して社長様から二本松家具の歴史や特徴について教えていただいたり、職人さんに手ほどきを受けながらコースターづくり体験をさせていただきました。



新博物館看板の台座も作っていただきました。

### 【大堀相馬焼・二本松家具城家筆筒 学びの成果】

二本松の家具づくりの技術を生かしたコースターの上に、大堀相馬焼の器を乗せて、2つの地域の伝統工芸のコラボレーション作品を作りました。



【上川崎和紙】 平成27年1月に、道の駅安達にある二本松市和紙伝承館において紙すき体験を行いました。以来、令和2年度まで続けてきました。6年生は自分の卒業証書を、在校生は卒業生に贈るメッセージカードなどをすきました。



## ②食

### 【なみえ焼そば】

平成25年7月に、浪江焼麺太国の橋弦一郎様と前司昭博様を講師にお迎えし、なみえ焼きそばの歴史や特徴を教えてくださいました。



実際に作っていただき、御馳走になりました。10月には、大王が来校され、児童を「浪江焼麺太国こども大使」に任命してくださいました。平成26年10月のB-1グランプリin郡山には、こども大使として会場に駆け付けてPRを行いました。

【かぼちゃまんじゅう】 平成27年5月に、津島地区出身の石井絹江様を講師にお迎えし、「かぼちゃまんじゅう」のお話をうかがったり実際につくったりしました。

令和2年11月には、津島地区出身の今野千代様をお迎えして学び直しをしました。



【和菓子】 平成28年1月に、菓子処まつもとから職人さんをお迎えし、二本松和菓子のお話をうかがったり和菓子作り体験を行ったりしました。2月には、玉嶋屋様や豊田屋様を訪問してお店の様子や和菓子の製造工程を見学させていただきました。



【紅葉汁】 平成28年5月に、泉田川漁業協同組合の石井光子様をお迎えし、実際に大きな鮭をさばいて「紅葉汁」と鮭ご飯をつくってくださいました。

令和2年11月には、石井光子様と本校元職員石井三枝子様に再度来校いただき、学び直しをしました。



【ざくざく】 平成28年9月には、福島県栄養士会地域活動事業部の阿部和子様を講師にお迎えし、二本松の伝統食「ざくざく」についてお話をうかがったり実際につくっていただき、ごちそうになりました。



### ③祭

**【安波祭】** 平成26年5月に請戸芸能保存協会会長の渡部忍様を講師にお迎えして、請戸地区茗野神社の歴史や樽みこし、田植え踊りについて教えていただきました。実際に使用している獅子頭に触れたり衣装を着させていただいたりしました。



**【三匹獅子】** 平成27年5月に、津島郷土芸術保存会会長だった故 瀬賀範眞様をお迎えし、三匹獅子にまつわるお話を聞いたり衣装を着させていただいたりしました。



令和2年7月には、津島郷土芸術保存会庭元の今野正悦様を講師にお迎えして学び直しを行いました。

**【十日市祭】** 平成25年11月と平成29年6月に、当時の浪江町商工会事務局長の島田龍郎様をお迎えし、歴史や



今後の活動について教えていただきました。平成26年11月から平成29年



11月のプレ十日市&感謝祭in二本松までは、ふるさとなみえ科の活動紹介や歌・太鼓演奏などのステージ発表などに参加してきました。浪江町地域スポーツセンターで開

催されるようになった平成30年11月からは、浪江町に行つてなみえ創成小・中学校の児童・生徒と一緒に参加をしました。



**【提灯祭り】** 平成29年9月に、福島県民族学会会員の喜古康浩様を講師にお迎えし、提灯祭りの歴史や取り組みについて教えていただきました。10月5日には、市内に出かけて行って祭の様子を実際に見学しました。



**【十日市祭・提灯祭り 学びの成果】** 神輿を手作りしました。神輿の本体部分は、浪江の海と二本松の空をイメージした青。屋根は、なみえ焼きそばと二本松家具をイメージした茶。本体の前部分には、浪江小・津島小の校章。横には、浪江の秋桜と二本松の菊。後には、浪江のカモメと二本松の松を飾り付けました。そしてこの神輿を、プレ十日市&感謝祭in二本松で披露し、会場を盛り上げました。



#### ④その他

**【標葉せんだん太鼓】** 厳密に言えば、浪江町の伝統芸能ではありませんが、東京のロータリークラブの支援をきっかけに、自分たちで発信できるアイテムの一つとして平成25年度から取り組みました。保存会の横山久勝会長と今泉春雄様のご指導を受けました。



曲は天響と朝日の2曲です。横山会長様からは、姿勢や目線、たたき方の所作から、礼に至るまで、太鼓の技能だけではなく、大切な心構えまで教えていただきました。

### (3) 浪江町の人々と交流する

様々な関わりを通して、不自由な避難生活をする町民の方々に、児童が元気をお届けした実感をもつことができました。

児童にとって、ふるさとについて考えたり自分の未来を切り拓いたりしていく上で、浪江町の方々とつながりができたことは、大変意味深いことでした。

#### ①ふるさとなみえ交流会

**【仮設住宅・オンフル双葉訪問】** 不自由な生活を強いられていた、町民の方々に少しでも元気づけることができればと、仮設住宅訪問を行いました。平成24年度から仮設がなくなる平成29年度までの6年間続けました。

太鼓やダンス・歌を披露したり、昔の懐かしい遊びを一緒にしたり、直接ふれ合ったり



しました。「なみえっ子カルタ」も一緒に楽しみました。春と秋の年2回、メッセージを添えたお花を届けたりもしました。

オンフル双葉さんも継続的に訪問をし、直接触れ合ってきました。こちらは、平成24年度の一周年から令和元年度まで継続してきました。最終年の令和2年度は、新型コロナウイルス感染対策のために訪問することができなかったことが、心残りとなりました。

やってもらうことが多い児童ですが、お年寄りの皆さんのために努力をし、それを認めてもらえた喜びは、大きな自信となりました。初めは立ってインタビューをしていた児童が、いつの間にかひざまずいてお年寄りと目線を合わせ、手を握りながら話している表情。これは、学校で机に向かっていただけではできなかった表情でした。大変有意義で貴重な時間とすることができました。



## ②まるごとなみえっ子運動会



運動会も地域の皆様や全国からご支援くださっている方々と、直接触れ合う貴重な場でした。令和2年度は、新型コロナウイルス感染対策のために、開催時期をずらしたことにより浪江青年会議所の皆様に例年お世話になってきた鯉のぼりが校庭で泳いでいなかったり、参加者を福島県内在住者としたりしました。たくさんの不安があった中でしたが、素晴らしい秋晴れに恵まれ、『笑顔で絆を大切に 誇り高く力の限り はばたくぼくらなみえっ子』のスローガンのもと、地元下川崎地区グラウンドゴルフメンバーの皆様、学校応援の会並びに浪江町の皆様、卒業生など60名が、駆けつけてくださいました。多くの皆様に支えられてきた学校であることを改めて実感しました。

既存の町立小学校最後の運動会であるこ

1	ラジオ体操	特別
2	苧野の梨が大豊作	団体
3	幾世橋 大聖寺の希望の鐘をならせ	団体
4	津島五山の宝探し	特別
5	浪江サンプラザでお買い物	個人
休憩（10分間）		
6	大堀相馬焼のろくろ回し	団体
7	下川崎グラウンドゴルフチャンピオン大会	個人
8	おなじみ請戸の鮭キャッチ	団体
9	みんなでリレー	特別

とを意識し、感謝の気持ちをお伝えするため、荻野・幾世橋・津島・浪江・大堀・請戸の6つの小学校の地域と二本松市下川崎地区にちなんだ種目を、ふるさとなみえ科で学んだことを活かして、児童と一緒に設定して実施しました。

### ③学校応援の会

浪江町民及び再開校の教育活動にご支援をくださっている方々の組織として学校応援の会（10名）と、元本校職員で組織されている学校協力者の会（5名）があります。

令和2年度は、総会を実施して活動計画を策定しました。学校行事や教育活動にできる範囲で参加していただき、熱い思いを存分につけていただくことで、1年間をかけて、これまでの感謝の気持ちをお伝えしました。



- ① 6月10日：第1回植花活動・総会
- ② 7月7日：大堀相馬焼体験
- ③ 9月11日：大堀相馬焼で博物館看板の題字作成
- ④ 10月16日：安達太良登山
- ⑤ 10月28日：第2回植花活動・運動会実行委員会
- ⑥ 11月7日：まるごとなみえっ子大運動会
- ⑦ 11月13日：食文化体験活動（かぼちゃまんじゅう・紅葉汁）
- ⑧ 2月25日：博物館お披露目式・学習成果発表会
- ⑨ 3月23日：卒業式
- ⑩ 3月29日：二本松校舎閉校の集い

### ③浪江町以外の方々との交流

学校再開以降、全国のたくさんの方々からご支援を頂戴してまいりました。「ニコニコ雑巾」の清須市太田貴代美様や「卒業記念DVD」の岡山市深谷直弘様は、10年過ぎようとしている現在も温かい励ましをくださっています。

毎年直接交流をさせていただいている方々も多くいらっしゃいます。



#### 【浪江と多摩をつなぐ交流のつどい】

多摩市聖蹟桜ヶ丘商店街連合会は、阪神淡路大震災や東日本大震災の被災地に対して、温かいご支援を継続的に行ってられています。本校は、上記連合会で現在復興支援担当理事をなさっている平清太郎様と本校学校応援の会会長原田雄一様とのご縁で、

交流を始めました。交流のつどいでは、互いの学校や総合的な学習の時間の取り組みを紹介し合ったり、歌の交換をしたりしました。令和2年の訪問時には、多摩第一小学校の4・5年生が、「んだげんちょ」ダンスを事前に練習して覚えていてくれて、お昼休みに一緒に踊った感動は記憶に刻まれています。



- ・平成28年2月27日 多摩市ヴィータホールにて和太鼓演奏
- ・平成30年2月10日 二本松校舎にて交流のつどい
- ・平成31年2月2日 二本松校舎にて交流のつどい
- ・令和2年2月7日 多摩第一小学校にて交流のつどい
- ・令和3年3月4日 リモートで交流のつどい

### 【近江公民館】

滋賀県近江公民館様からは、平成26年度からたくさんのご支援を頂戴するとともに、毎年ご来校いただいて交流をしてきました。歌やダンスを披露したり一緒に「なみえっ子カルタ」をしたりしました。



### 【小島牧水・尚山ご夫妻】

ご夫妻は、三重県津市からキャンピングカーで震災後東北各地を回られ、尺八や三味線の演奏を通して被災地の方々を元気づけておられます。本校には、平成29年度から毎年演奏を聴かせてくださったり、子どもたちの和太鼓演奏をご覧いただいたりしてきました。



### 【グラウンドゴルフ】

毎週水曜日に、学校の校庭で、下川崎地区の皆様が「グラウンドゴルフ」を楽しまれています。令和元年度からグラウンドゴルフを教えていただいたり交流会にご招待した



りして、直接交流を始めました。令和2年度も、2回一緒にプレイさせていただきました。

令和元年度は、下川崎地区第1回夏祭りにご招待いただきました。



#### (4) ふるさとの未来を考える



ふるさとの未来を考えるために、町の現状をしっかりと理解し、様々な立場の町民のこと・環境のことに目を向けられたことは、ふるさとの意識を強めただけでなく、児童がこれからの生き方についても意識するきっかけとなりました。

#### 【未来の浪江町構想】

平成24年9月に、浪江町役場復興推進課の小林直樹様を講師にお迎えし、「未来につなぐ復興への想い」をテーマにお話いただきました。

このお話を受けて、全校生がA公共施設・B福祉・C復興復旧・D産業・E商業・F娯楽施設の縦割り6班に分かれて、未来の浪江町について考え発表しました。そして、その考えをもとに、早稲田大学建築土木専攻の学生とのワークショップを行い、未来の理想の浪江町を模型に表しました。

#### 【まるごとなみえ博物館】

平成28年8月に、福島県立博物館専門学芸員の小林めぐみ様にご指導をいただいて設置しました。校舎内を「まるごとふるさとなみえ博物館」ととらえ、常時、「ふるさとなみえ科」の学習状況が見渡せるような学習環境づくりを行いました。



#### 【10年間ふるさとなみえ博物館】

「ふるさとなみえ科」10年間の学びを未来に残すため、博物館を再構築しました。福島県立博物館専門学芸員の小林めぐみ様や学芸員の平沢慎様他多数の学芸員様の手をお借りしました。8回もご来校くださり、館長である児童にご指導やご助言をくださいました。9月には、私たちも県立博物館を訪問して現地でレクチャーを受けました。また、新たに看板も作成しました。二本松家具の土台に、大堀相馬焼の文字をしつらえました。

令和3年2月25日にお披露目式を行い、たくさんの地域の皆様にご覧いただきました。

## 6 おわりに

教育の土台である地域と学校が引き離され、学習の機会を失いかけていた児童を前に、当時の教職員が創り上げたのが「ふるさとなみえ科」です。

ふるさと喪失という先の見えない問題に直面し、「ふるさとへの誇りをもち、自ら課題を追究し、生き抜く力を育てたい」との思いが結実した学習プログラムであり、「小さな学校で大きな感動」を学校経営の中心に据える本校において、大きな成果をあげてきました。

ふるさとと学校をつなぐために、本物との出会いを大切にした人々との交流にこだわって工夫をしてきました。これにより、児童の課題解決に向かう探求心や挑戦心を刺激し、課題を解決して自分のものとすることができました。そして何より、浪江町をふるさととして意識し、浪江町の良さに気づき理解し、浪江町の方々とのつながりをつくることができました。

また、避難という特殊な学習環境での課題追究の可能性として、浪江町と避難先の二本松市2つの地域の関係を大切にしながら、学びを展開することができ、それぞれの「ひと、もの、こと」を活用した、深まりのある理解を引き出すことができました。

多くの児童は、避難先での生活を継続しています。中学・高校と進学していくにつれ、浪江町の文化に直接的に触れ関わることは、少なくなっていくでしょう。しばらくは、自分の中の引き出しにしまっておくこととなります。しかし、10年後20年後に、浪江町を訪れたり浪江町の方と関わったりしたとき、「ふるさとなみえ科」の引き出しを開けるに違いありません。その時こそ、この避難先再開小学校での学びを改めて自分で繋ぎ直し、ふるさとへの強く深い愛着や誇りとして噛みしめてくれると信じています。そして、その中の何人かが、未来の浪江町をつくっていく担い手になっていてくれることを願います。

浪江町立避難先再開小学校を卒業した、浪江を愛し、未来に向かって、笑顔で生きる児童は、浪江小学校39名。津島小学校4名です。

10年間にわたる「ふるさとなみえ科」の学びに、ご支援・ご協力くださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。



平成23年3月11日 東日本大震災

平成23年度	8月25日 浪江小学校 再開	
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		4月1日 津島小学校 再開
平成27年度		
平成28年度		
平成29年度		
平成30年度		
平成31年度 令和元年度	3月31日 浪江小学校 休校	
令和2年度		3月31日 津島小学校 休校

木村 裕之 丹治豊一郎  
 武内 弘子 佐藤 勝幸  
 三浦 綾子 紺野 直之  
 佐野富寿雄



## 10年間ふるさとなみえ大事典

令和3年3月発行

【発行】

浪江町立避難先再開小学校

【印刷所】

株式会社まつざき印刷

〒979-1521 福島県双葉郡浪江町大字権現堂字南深町4

